

324
312

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始



324

312

心 安 宗 眞

論 不 覺 念 一

一念覺不諭

大正
1. 8. 9
丙寅

八	目錄	六三
七	緒言	六一
六	叙異說	六三
五	一 香月院師	六四
四	二 威廣院師	六七
三	三 香山院師	六九
二	四 威力院師	七二
一	五 賢藏嗣講師	七四
	六 三洲圭洲寮司十八需答	七二
	七 風航寮司應答	七八

八 清凉閣僧亮師……………五〇

九 足利義山師……………五一

述 自 義

一 一念兩釋ノ義意……………五八

二 時刻極促ノ義意……………六〇

三 一念ヲヒトオモヒト訓スル説ノ可否……………六一

四 言亡慮絶ノ一念ニアラサル事……………六五

五 一念記憶ノ有無……………六七

六 願樂覺知ノ義意……………六八

七 信心ノ心ハ慮知心ナル事……………七〇

八 覺悟花鮮ノ義意……………七二

九 一念有覺ノ的證……………七五

十 時刻ノ一念不覺ノ理由……………七六

十一 往生一定ト思ヒ定ムルハ第二念トスル説ノ可否……………七六

十二 非有念非無念之義意……………八二

十三 吉水入室年時記憶ノ通釋……………八四

十四 獲信年時記憶説ノ可否……………八七

十四 蘇州平報館新刊の問答……………八三

十三 青木大室平報館新刊の問答……………八四

十二 非宗教主義論の大意……………八二

十一 封書一紙の想の空々々々……………八六

十 拙稿の一念不覺の理由……………八六

九 一念不覺の理由……………八五

緒言

信歸同異、信願交際、二種深信、一念覺不、タスケ玉へ續不等ハ一家安心論
 題中ノ至要ナルモノニシテ、就中一念覺不論ノ如キハ眞因決了ノ時尅ノ極促ニ
 就テ論スル者ナレハ潛心細意、慎重ノ研究ヲ要シ苟モ輕忽ニ付スヘカラサル最
 要論目ナリ、輒近不言講布團被リ杯ノ秘事法門者カ一念ニハ慥カニ覺ヘアリト
 イヘルニ付キ此問題ニ關スル議論都鄙ノ間ニ囂々タルニ至リ、隨テ予ニ對シ各
 種ノ方面ヨリ質問ヲ試ミラル、アルモ予日課ノ爲メニ一々答辨ノ違ナキコトヲ
 憾ム、幸ニ予曾テ明治三十五年高倉夏安居ノ際徵サレテ宗義研究會ニ出席シ、
 吉谷講師指導ノ下ニ此等ノ論題ヲ研究セシコトアリ、依テ其當時ノ舊記中ヨリ
 一念覺不ニ關スル部分ヲ抄出シ法藏館主ニ囑シテ印刷ニ附セシメ以テ質問諸賢

ノ答案ニ代ヘ聊カ其責ヲ塞キ併セテ此種ノ問題ニ就テ研究セントセラル、諸君ノ参考ニ資セントス、然ルニ予菲才淺識必スシモ之ヲ以テ宗義ヲ盡セリト云フニ非ラス且日課勿忙文辭修飾ノ餘暇ナシ隨テ言辭或ハ誤リナキヲ保セス若シ辯中宗意ヲ誤ル所アラハ讀者諸君忌憚ナク懇諭セラレンコトヲ伏シテ乞フモノナリ。

明治四十五年六月十五日

於大谷大學研究院

太藤 順海 敬白

眞宗安心 一念覺不 論

太藤 順海 輯錄

ソモ、本宗ノ諸教ニ超絶スル特徴ハ、愚縛ノ凡愚屠沽ノ下類、聞名信喜ノ一念ニ豎ニ諸位ノ階級ヲ經ス、横ニ五惡趣ヲ截リ、正定不退ノ現益ヲ獲テ、順次成佛ノ大益ヲ得ルニアリ、先德ハ之ヲ嘆シテ三祇ヲ一念ニ超ヘ衆聖ヲ片言ニ調フト云ヘリ、サレハ此一念ニ付テ三業ノ儀則成滿スルヲ一念ト名クト云ヒ、或ハ信行同時ニ成滿スルヲ一念ト云ヒ、又ハ他家ノ中道說ヲ附會シテ、當流ノ信心ハ高尚幽深言亡慮絶ノ一念ニシテ其心相說クヘカラス又教ユヘカラス不可思議不可稱不可說ナリトイヒ、又頓機ニハ覺アリ漸機ニハ覺ナシトイヒ、或ハ煩惱ノ喧騷ナル時ニ得タ者ハ覺ナシ、靜穩ナル時ニ得タ者ハ覺アリト云フ、其

他種々ノ妄計ヲ、逞クシ異說紛紜殆ント拾收スヘカラス、潛心細意慎重ノ態度ヲトリテ、研究スヘキハ此一念覺不ノ要題ナリ、故ニ我高倉ノ先哲ノ中別ニ一部ノ著述ヲナシテ論セラレタル者ハ未タ見サレトモ、聖典講贊ノ辨中、間々其說アリ依テ其指南ヲ守リ、私ニ二門ヲ設テ解決ヲ試ントス、二門トハ、

- 一、汎 叙 諸 說
- 二、正 述 自 義

先初汎叙諸說トハ

一 香月院御一代聞書講義

彌陀如來ヲヒトタヒタノミマイラセテ等、コノヒトタヒト云言ハ、直ニハ通セラレヌトコロナリ、先年モ當國三業者流ノ中ニ、一期ニ一度彌陀ヲタノミ奉

ルト云コトサカリニ申タノナリ、御一流ニ一期ニ一度ト云フコト甚タ嫌フコト一期ニ一度ト云コトヲ嫌ダユヘ、一トタヒト云言マテヲ嫌フモノアリテ是亦一概ナリ、是ハ三業者流ノ一期ニ一度ト云ノハ屹度タノシタト云覺ヘカナケレハナラヌト云カラ、甚シキニ至テハ何月何日ニタノシタト月日ニ覺ヘアル筈ナヤト云カラ、一期ニ一度ト申タノナヤ、三業者流ノ一期ニ一度ハナルホトキハラチハナラヌ、今御正意ニ於テ一度彌陀ヲタノムト云フコト是嫌フヘキコトニテハナヒ、ナセト云ニ宿善到來シテ彌陀ヲタノミ奉テ、一念歸命ノ信心ノ起ルハ、何月ノ何時起タカハ覺ヘハナケレトモ一念歸命ノタノムコ、ロハタツタ一度ナリ、コレカ二度モ三度モアル筈ハナヒ、是ニ心得ヘキハ一念歸命ノタノミハ、助ケ玉ヘノタノミ、彌陀如來ヲタノミニ思フタノミハコレハ臨終マテアル筈ナリ、一念歸命ノ助ケ玉ヘノタノミハ初一念ニカキル筈ナヤ、依テ御文ノ三

帖目ノ第十三通ニ一タヒ一念歸命ノ信心ヲオコセハトアル、助ケ玉ヘノ一念歸命ノタノミハ初一念ニカキル故ニ、ヒトタヒ一念歸命ノ信心ヲオコセハトアル又五帖目第十二通ニヒトタヒ他力ノ信心ヲエタラン人ハミナ彌陀如來ノ御恩ヲ思ヒハカリテト一度ト云言カアル、又二帖第十三通ニ一度等、三帖目五通ニハヤ一度等コレハ信後ノ報謝ノトキ初一念ノ助ケ玉ヘノタノム一念ヲフリカヘリテ何日ノ何時カハシラテトモ初一念ノトキニハヤ彌陀ヲタノミ御助ハ治定ナリト喜フノチヤ、ソコテミナ一度ノ言カアル一度ト云言ヲミナキラフナレハコレヲノ御文ノ言イカンカセシヤ當國ナトニハ先年ハ三業者ノ一期ニ一度ヲキラフテ一度ト云コトヲ申サヌヤウニシタノナリ、近頃常タノミノ者カ一度トイフ言ヲキラフテナラヌ、助玉ヘト思フ一念歸命ハイツノ何時ト云覺ヘコソナケレ、コレハモフ一度ニ限ルコト、ソコテ御文ノ中ニ處々ニ一度々々トアル、爾レハ

今此一度ノ言ハ何モ不審ナコトハナヒ、

同師改悔文講義

今改悔文ハカチテノ我領解ヲ云ヒノヘタ者ユヘニ、タノミ申シテ御座リマスト云コト、此申スト云ノカ常ニ云所ノマシテト云カハリナリ今日ハ客カアルカ手水ノ水ヲ設ケテ置タカト云ヘハ、今朝カラ汲テオキマシテ御座リマスト答ヘルマシテ御座リマストイフ、過去ノ言テ前方ヲ顯ス言ナリ今コノ申シテト云モ同シコトテ、何ツ何時ト云月日ハ覺ハナケレトモ聞其名號信心歡喜ノ端的ニ一心ニ阿彌陀如來我等カ今度ノ一大事ノ後生御助ケ候ヘトタノミマシテ御座リマスト豫テノ領解ヲ云言ナリ、

二 威廣院改悔文講義

覺不覺ノ相違ト云ハ、是ハ意業タノミノモノハ、心ニ助玉ヘト思タ覺ヘカナケチハナラヌト募ルナリ、夫故ニイカ程難有信者テモ助ケ玉ヘトタノンダ覺ヘカナヒト云ヘハ異安心ト貶ルナリ、又不信者テモ私ハ助ケ玉ヘト心ニタノミマシタト云ヘハ信者ト許スナリ今御正意テハタノムニ違ハナケレトモ其タノンダ覺ノアルト云ハ皆拵ヘモノナリ御正流ノタノミハ何時タノンダト云ヤウナ月日ノ覺ヘハナキナリ是覺ト不覺トノ相違ナリ譬ハ暑ヒ時ニサムヒト思フテミヨト教ヘラレテ、思フテミタノハイツチヤト云覺カアレトモ是ハタ、思フタノナリ、又冬ニナリテ天地ノ寒サカ身へ通リテ寒ヒト思フタハマコトニ思フタノユヘニ、何月何日何尅カラ初メテ寒ヒト思ヒ初タト云フコトハ知レヌナリ、今モ爾リ意業募ノタノミハコナラテ自力カ拵ヘタタノミユヘニ覺カアレトモ、御正意テハ如來ノ助玉フ本願ノ謂レカコナラヘ受ラレテ、タノンダノチヤニヨテイツノ何

時初テ助ケ玉ヘト思ヒ初タヤラ其時ノ覺ハナキナリケレトモ初一念ニ助ケ玉ヘト思フテタノンダニ違ヒナヒ證據ニハ、今往生一定ト落付イテ彌陀ノ御助ケニ打任セテ御恩ノ程カホソ〜ト喜ハル、カ初一念ニタノンダ證據ナリ已上ハ香月書畧タトヒ實ノ信心ヲ得タ人ノ中ニ助ケ玉ヘト思フテタノンダ覺カアルト云人カアルマヒモノモナケレトモ夫モ正ク攝取ニアツカルトキナヤト云コトハ覺ヘラレヌナリ云云
タツタ一念ユヘニ覺ヘルホトノ間ハナキナリトアトカサキカアトカラフリカヘリテ思フノナリ是覺不覺ノ相違ナリ、

三 香山院改悔文私録

サテハ今カ一念チヤサテ只今助ケ玉ヘトオモヒマシタト云フヤウナ覺カアル

ニ非ス左様ナ淺ハカチコトヲ立ルナラハ衆多ノ過カアルナリ、

同師 同錄

凡夫ノ方ヨリイツレノ時カ正ク一念チヤ、イツノ時節カ如來ノ廻向チヤト云
コトハ凡夫ノハカルヘキニ非ス我胸ノ業煩惱ノ一ツタニ知ルコト能ハス、イカ
ニ況ヤ佛智ノ不思議チハカラフヘキヤ、爾ルニイヨク本願相應ノコトハリ心
ニ貫テ之ヲ疑ハント欲シテモ疑フコト能ハス三祇チ一念ニコヘ凡夫即生ノ往生
チキ、テモ疑惑チ生セスイヨク喜チ増ス、コレヒトヘニ凡夫自力ノ迷心ニ非
ス、是ニ於テハカラヒナク佛力ヲタノマレタルコトヲ知ルカ故ニタノム一念ノ
トキ往生一定御助治定ト存シト申上クル、是レ佛チ欺キ衆生チ誑スニ非ス内ニ
カヘリミテヤマシカラスト申シ上ルトコロナリ、

同師執持鈔記

善知識ノコトハノシタニ歸命ノ一念ヲ發得セハ等トアル文、マコトニ要文ナ
リヨク可味動モスレハ一念ノ時尅チ争ヒ覺ノアルモノカ無キモノカナト、
申スコト中古三業安心ヨリ起ルコトナルヘシ若一念ノ時尅チハイカントイハ、善
知識ノコトハノ下タナリコノ聖教量チ心得ヘシ一念ハ覺ラレヌ凡夫ノ覺ルハ第
二念已後チトイフ是モ道理微細ナルニ似タレトモ麓論ナリ其第二念チ覺ルト云
ハ、ヤハリ年月位ノアラキコトハ覺ヘチハナラヌ又モトヨリ信心ノ體ニ覺知チ
キモノト思フヘカラス信心ハ他力トイヘトモコレ心法ナレハソノ體緣慮々知ノ
法故ニ我祖ノ三信釋ニ欲ノ言ハ覺ナリ知ナリト玉フ爾ラハ其善知識ノコトハト
云ハ云何ト云ニ、聞ケトモ聞ケトモ若存若亡スル間ハ無明ノチ有ル位ナリ稱
レトモ聞ク毎ニ漸ク薄クナルナリソノ薄ラキチイヨク根ノ切レタル時得ル決
定心ナリコレ凡夫ノオシツケハカラフコト能ハサルコトヲ知ルヘシ

當流ノ正意ハ助ケ玉ヘトタノンタ初一念ニ覺ノナイト云カ正意ナリ（中略）何故ソト申スニ二故アリ、一ニハ信樂開發ノ時尅ノ極促チ一念ト云フ此信卷ノ文ヲ眞要鈔末ニ引テアル同本ニハ極促ノ言ヲ出シ御左ニキハメテミシカシト假名ヲ付ケ玉フ、凡夫ノトロクサイ心テハ覺ノアルヘキ筈ナシ惟無三昧經ニ一人一日中、八億四千念、念々中所作、皆是三途業トアル人々一日ノ中ニ八億四千萬ノ妄念ヲ起スソノ妄念ヨリ色々ノ所作ヲナス夫カミナ三途ノ業ヲヤト説テアル爾ルニ面々ハ我心ニ毎日八億四千念ノ妄念ヲ起シナカラ夫ヲ覺ヘ知ルモノハ一人モアルマイ我心テ起ス妄念スラ覺ヘ知ルコトナラヌトロクサイ凡夫ノ身トシテ名號ノ聞開カレタル一念ニ後生助ケ玉ヘト發起スル一念カ覺ヘ知ラル、モノ

四 威力院御一代記講義

テハナヒニハ他力發起ノ故ニ我心ニ覺ヘハナキ筈ナリ、自發起ノ妄念スラ覺ヘヌ我等カ他力發起ノ信ノ一念ニ覺ヘノアロフヤウハナヒ御式文ニ至心信樂忘レ已速歸無行不成之願海ト仰ラレテ已カ身フリ心フリヲ忘レテタノメ助ルノ御喚聲ニトリツク一念ナリ、已ヲ忘テ一念ニ覺ノアルヘキ筈ナシ我身ニ覺ヘタトモ如來ノヨクシロシメシテ心光ニ攝取シ玉フ、

問云信卷ニ欲生ヲ釋スルニ願樂覺知ノ心ナリトノ玉フ覺知ト云ハオホヘシルト云フ義ニ非スヤ答云夫ハ甚ダ間違ナリ覺知ト云ハ覺ヘ知ルト云義ニ非ス覺ハ覺了ノ義覺悟ノ義ナリ御式文ニ覺悟華鮮ニトアル信心領解ノ一念ハ覺了ノ一念又覺悟ノ一念ナリ善導大師ハ無生忍ノ一ヲ分テ喜悟信ノ三忍トシ玉フ喜忍ハ歡喜ノ一念ナリ悟忍ハ覺悟スル心テ悟ノ字ハ觀經ニ廓然大悟トアリテ面前ニ垣シテ立ツトキハ向フヲ見ルコト能ハス信心得ヌサキハ目前ニ垣ヲ立タル如ク未來

ノ行先キサツハリ見ヘヌ如來ノ勅命ニ呼起サレテ一念信シタ處カ目ノ前ノ垣ヲ拂フ如ク未來ノ行先キ明ニ、イヨ／＼淨土ニ往生スルト、覺悟シタトコロヲ悟恐トノ玉フ信恐トハ疑ナク信スルコト夫ニ恐ノ字ヲハ用ルハ忍可決定ノ義ナリ是テ覺ノ字ヲ解スヘシ知ノ字ハ觀知トモ續キ信知トモ續ク、爾レハ覺知ノ文字ヲ見テ三業歸命カ覺ノアルト云證據ニシタハ笑フヘキナリ、

五 越前國賢藏嗣講 改悔文講義

火ニサハリテアツロト思ハヌモノハナヒ雪ニサハリテツメタイト思ハヌモノハナイ本願ノイハレ名號ノイハレノ聞カレタモノニ後生助ケ玉ヘトタノマヌモノハ千人ノ中ニ一人モナキナリ但シ夫ヲ覺ヘテ居ルト覺ヘテ居サルモノトハアルナリ其覺テルモノハ一念ノ處ニ助ケ玉ヘノ思カアルヤウニ存ス又覺テ居ヌモ

ノハ何モ其ヤウナ思ハ無リタヤウニ存スレトモ、實ハ一人テモ後生助ケ玉ヘトタノマヌモノハナキナリソコテ後生助ケ玉ヘトキツトタノミ奉テモ、信ノ得ラレヌモノアレトモ信心ヲ得タモノニ後生助ケ玉ヘノ無キモノハナキナリ御一代聞書杯ヲ拜見スヘシ信エタモノカ無ヒトハ歎キ玉ヒタレトモ後生助ケ玉ヘトタノムモノハ無ヒトハナキナリタトヒ美ク信シテ居テモ、タノンダ覺カナケレハ信チエヌノチヤト致シ又後生助玉ヘトタノミサヘスレハ夫ヲ信心チエタノチヤト印可スルハ、實ニ愚昧ノ至リナリ憐ムヘキニタヘタコトナリソコテ何モ知ラヌモノヲ捕マヘテタノンダカ、タノマヌカ若タノンダ覺カ無クハ、今爰テタノメト云テ驚カスト云ハアラフコトテハナヒ何分後生助ケ玉ヘトタノミ奉ルト云ハタノム一念ノ思ヒフリユヘ御文テハ其思フリノ處ヲ委シク示シ玉ヒテ後生助玉ヘトタノメトアリ改悔文テハ其思ヒフリヲ委ク發言シテ一心ニ彌陀如來我等

カ等トアルナリ、

同師 同録

タノミ申シテ候ト御影前テ申上ルカラハ何テモタノンダ覺ヘ無子ハスマヌダ
ノンダ覺ヲ無クシテタノミ申テ他ト云ハ如來聖人ニ虚言ヲ申上ルコトアルマイ
カト云フナリ、此タノンダ覺ヘカ無子ハナラヌト云ニ二通アリ、一ニハ年月日
時迄ヲ覺ヘ何テモ何年何月何日ノ何時ニ某ノ處ニオヒテ御タノミ申タト云覺カ
無子ハナラヌ云ト是ハ祖師ナトナ證據ニシテ祖師モ信心決定ノ日ヲ覺ヘテオイ
テナサレテ建仁辛酉ノ曆捨雜行等トアル、夫ナレハ時節ヲ我々モ覺ヘテ居ルヘ
キコトナヤト云ナリ、二ニハ年月日時ハ覺ヘストモ何テモ一期ニ一度シカトダ
ノンダ覺カ無子ハナラヌト云ノナリ、勿論年月日時ハ覺ヘストモ、シツカリト
タノンダ覺カ無子ハナラヌト云モミナ愚昧カラ起ル云ヒ分ナリ若コノ言葉ニ執

一 念 覺 不 論

シテタノミ申テ候トアルカラハ是非タノンダ覺ヘカナケレハナラヌト云夫ナラ
ハモロ／＼ノ雜行乃至ステ、ト云モコレ／＼ハ雜行ノ心、コレ／＼ハ雜修ノ心
コレ／＼ハ自力ノ心ト一々ニ知り辨ヘテ、屹度知リアキラメテ捨テハナラヌト
云ハ子ハナラヌ、モロ／＼ノ等ト申スルカラハソフアルヘキナリ爾ル二十人カ
九人マテモ何カ雜行ノ心ヤラ乃至何カ自力ノ心ヤラ一々知り辨ヘテステタニハ
アラ子トモ一心一向ニ彌陀一佛トフリムイタ處ヲモロ／＼ノ雜行ステタ處ユヘ
如來聖人ニ向ヒ參セテ恐レケモナクモロ／＼ノ雜行ステ、ト申上ル、爾レハ後
生御助ケ候ヘトタノミ申スト云モ、何モタノンダ覺カ屹度無子ハナラヌト云フ
コトニ非ス、二心ナク如來ヲタノムコ、ロノ子テモサメテモ憶念ノ心ツ子ニシ
テ忘レサルヲ本願タノム決定心ヲエタル信心ノ行人トハ云ナリ等トアレハ、信
心相續シテ本願ヲ思出ル心ノタヘスツ子ナルカ即本願ヲタノミ奉リタ處ノ行者

ト云モノユヘ、タトヒ屹度タノミ奉タ覺ハナクトモ、タノミ奉タニ違ヒナキユヘ、後生御助ケ候ヘトタノミ申シテ候ト憚リナク申上ルナリ今現ニ歩ヒテ居ルモノニアルキ初ノ無イト云コトハナキ如ク、今現ニ本願ヲ信シ彌陀ヲ信シテ居ルモノニ、信シ初ノナヒト云コトハナヒ、其信シ初ノ思ヒハ必ス後生助ケ玉ヘトタノミ奉ル思ヒフリソコテ一心ニ阿彌陀如來後生助ケ玉ヘトタノミ申テ候ト申上ルノナリ、夫テモ申テ候トアルユヘ、タノンダ覺ヘカ無子ハナラヌト云ト、持タ棒テタ、カレ子ハナラヌモロモロノ雜行ステ、ト云モ一々知リ辨ヘテ捨タカトウナヤト持タ棒テタ、カレ子ハナラヌノナリタノミ方ノモノハ此ノ文ニ執シテ立テ、別ニ後生助玉ヘトタノマ子ハナラヌメノンダ覺カ無子ハナラヌト云ヘトモ、上ニ望メ下ニ望ルニ其義一向ニ成セヌナリ次上ノモロノ雜行ステ、ト云處ヘ望メルトキハ覺ヘカ無子ハナラヌト云義成セヌ、次下ノタノム

一念ノトキ乃至存シト云處ヘ望メルトキハ別ニ際立テタノマ子ハナラヌト云コトハ成セヌナリ、上ヘ望メ下ヘ望メテ篤ト思惟ヲ回ラシテ見ヘシ、トキニ爾ラハ年月時日ハ申スニ及ハス一向ニ彌陀ヲタノンダコトヲ覺テ居ルト云コトハナキコトカト云ニ、左様テハナヒ覺テ居ルモノモアルヘシ覺テ居ヌモノモアルヘシ丁度雜行雜修自力チステタコトヲ覺テ居ルモノモ有フシ無イモノモ有カ如クタノンダコトヲ覺テ居ルモノモアルヘシ覺テ居ヌモノモアルヘシ、一概ニハ論ハナラヌナリ覺テ居サルモノニ得テ忘レヨト云ニモ非ス、覺ヘヌモノニ覺子ハナラヌト云ニモ非ス、タノム一念ノ中往生ハ治定ト存シテ御慈悲ヲ喜フナラハ、夫ニハカマハヌナリ、凡ソ本願ニ歸入スル機ニ三通リアリ一ニ直入正意ノ機是ハ初カラ當流ノ御正意ヲ聽聞シテ信心決定シタヤカラナリ、二ニ廻權歸實ノ機コレ今迄眞言ヤ天台テ有リシモノカ忽チニ聖道自力ノ心ヲ廻ラシテ他力本願

ニ入タ根機ノコトナリ、三ニハ翻誤入正ノ機コレハ是マテ假法門異安心テ居リ
シモノカ善知識ノ御教化テコレマテノ誤リナヒルカヘシテ御正意ニ歸入シタ根
機ノコトナリ、コノ三種ノ根機ノ中テ初ノ一類ハ多ク覺カナキナリ何時本願ニ
歸シタヤライツ何時彌陀ニ歸シタヤラ知レタノナリ、夫モ一概ニハ云ハレヌ、
其覺ノアルモノモ有フシマタナキモアルヘシ借後ノ二類ハ多クソノ覺アリ回權
歸實ノ機モ翻誤入正ノ機モ多ク覺ノアル方ナリ併シコレモ覺ノナヒモノモアル
ヘキナレトモ多分ハ覺アルナリ、爾ハ覺テ居ルモノモアルヘシ覺テ居サルモノ
モアルヘシ一概ニハ云ヘヌナリ、夫故ニ聖人ノ御影前ニ跪キテ、一心ニ阿彌陀
如來等ト申上ルノニ、何モ差支ハナキナリ、約ルトコロハ一心ニ彌陀ニ歸スル
ヨリ外ハナキナリ、モロ／＼ノ雜行ステ、ト云モ彌陀ヲタノムト云モ疑ハレテ
一心ニ本願ニ歸シ彌陀ニ歸スルヨリ外ハナキナリ、詮スルトコロ左様ナリ、ソ

コテ今ノ改悔文ニモ捨雜行ト云ヒ歸正行ト云ノ間ニ一心ト云ツハナ入レ玉ヒ
テモロ／＼乃至ステ、ト云モ彌陀ヲタノミ申ト云モ他方ノ一心ト云ヨリ外ハナ
ヒソト示シ玉フコトナリ、

順海云此師ノ辨中ニ一念ニ覺ノアルモアリ又無キモアリトテ三願ノ機ヲ出シ分別セラレタ下坏甚
タ不審也看者留意スヘシ、

六 圭州寮司需答

三河國碧海郡若林村圓樂寺、先々住也

需答序

爰ニ予アママリテ釋氏ニ名ナカリテ、名利ノ媒トシ沙門ノカタチヲ偽リテ渡
世ノ媒トシ、他寶ヲムサホリテ浮雲ノ姿貞ヲ飭リ、人血ヲ絞リテ一旦ノ身命ヲ
保ナ乍ヲ、恭クモ、祖門ニ流チクンテ眞宗ノ法ニアヘルコト不可思議ノ幸ナリ、

然レトモ淺間敷不識ニシテ經釋ノ文義ヲ解スコトアタハス、無道心ニシテ弘願ノ法味ヲウルニイタラス、三經七祖ノ主旨ハ云フニ及ハス、在家勸化ノ御文タモサトラス大悲利生ノ經論ニ不審ヲイタキ、往生淨土ノ要義ニ猶豫ヲ生シ、若年ノ昔ヨリ初老ノ今日マテ腹ニ石ヲ含ムカ如ク、胸ニ劍ヲ含ムニ似タリ、サレトモ口頭ニ陳セハ正義ヲ難スル理ナカラシヤ然ルトキハエンコト其怖レ少カラス、故ニ輒ク親友ニモカタルコトヲ得ス、ヒトリ概念スルコト久シ、然ルニ近頃病ニオカサレ、露命モ程ナカラシニハ生前ニ不審ヲイタヒテ、當來ニ苦ヲノコサンコトイトカナシク、サリトテ言陳ニ出サンコトヲ怖シク、進退道ナケレハ、專ラ三寶ノ知見ヲ仰ヒテ、偏ニ罪咎ノ免レンコトヲ請フ、謹テ愚懷ヲ三五ヶ條ニ述シテ、伏テ勝解ヲ四方ノ英才ニモトム、唯願クハ明師ノ慈愍ヲ、垂レテ愚意ノ疑滯ヲ消サントノミ欲スル所也、

第一 不 審

今家ニ於テ一心ニ彌陀ニ歸命ストイフコト、古來異解多端ナレトモ正義家ノ心ロハ、歸命トハ後生タスケ玉ヘトタノムコト、云何様ニタノムソトイフニ、行者自ラ心ニ覺ヘテタスケ玉ヘト思フハ自力ナリ、今ハ名號ノイハレナキ、カ、ルモノヲ御助ケソト疑ハレテ信スルコ、ロカ即チ助ケ玉ヘノ思ヒナリ、故ニ行者ノ名號ノ謂レヲ聞ク一念ニ、覺ヘスシテ助ケ玉ヘト思フヲ他力ノ歸命也ト云々、

今日ク行者心ニ覺ヘテ助ケ玉ヘト思フハ自力ナリトイフコト聞ヘカダシ、其故ハ自力他力トイフコトハ鸞師ヨリ出テ、論註卷首ニ龍樹ノ論ヲ引テ難行道ヲ自力トシ、同卷末ニ天親ノ論釋ニヨリテ例ヲ引テ自力他力ノ相ヲ示シ、今家吾祖之ヲ委ク判シテ、聖道門ヲ自力トシ、淨土門ヲ他力トシ、別シテハ其他力

ノ淨土門ノ中ニ於テ、更ニ自力他力ヲ分別シテ、念佛及ヒ諸行等ヲ廻向シテ、願生スルヲ他力ノ中ノ自力トスルナリコノ他力ノ中ニ自力アリトイフコト更ニキユヘス、然レハ行者心ニ覺ヘテタノムトモ覺ヘスタノムトモ、本願ヲ信樂シテ助ケ玉ヘトタノムニ自力トイフコトキユエカダシ、但シ三業者流ノ意業ツノリノコトキハ自己ノタノミタルヲ、アテニシテ、ワカダノミタルユヘ御助ケナリト自己ノタノミタルヲ心ヲツノルユヘ、念佛モ諸行モ廻向セサレトモ自己ノタノミタル機功ヲツノル處ハ、定散ノ機ニ同シキカ故ニ之ハ自力トスヘシ、今本願ヲ聞信シ自身ハ罪惡生死ノ凡夫出離ノ緣アルコトナシト見限リ、本願ノ不思議ナレハコソ御助ケソト疑ハレテ助ケ玉ヘトタノムハ一分モ自己ノ機功ヲツノラス、本願佛智ヲツノルユヘ行者心ニ覺ヘテタノムトイフハ自力ニアラサルヘシ然ルニ行者覺ヘテタノムハ自力ナリト嫌フコト不審ノ第一也、

第二 不 審

又曰行者心ニ覺ヘテタノムヲ自力トシ、覺ヘスタノムヲ他力トセハ淨土ヲ願生スルモ覺ヘテ願生スルヲ自力トシ、覺ヘス願生スルヲ、他力トスヘキヤ、又行者心ニ覺ヘアルト、ナキトニテ自力他力ヲ分別スルコト列祖相承ノ釋ニ據アリヤ、其例證ヲ見スコレ不審ノ第二、

第三 不 審

又曰ク御文ニ去レハ彌陀ヲナニトヤウニタノミ、又後生ヲハチカフヘキソトイフニ、ナニノワツラヒナク、タ、一心ニ等、又云ク他力信心ノオモムキトイフハ、ナニノヤウモナクワカ身ハアサマシキツミフカキ身ソトオモヒテ、彌陀如來ヲ等、何ノ様モナク一心ニ後生タスケ玉ヘトタノムコトニキユエタリ、然ルヲ行者心ニ覺ヘテタノムヲ自力トシ覺ヘスタノムヲ他力トスルナレハ、之ヲ

簡別シテ明ニ心ニ覺ヘテタノムハ自力ナリトアルヘキニ、蓮師御一代何ノ様モ
ナク等トス、メサセラレテ心ニ覺ヘテタノムヘカラスト簡ヒタマヘルヲ見スコ
レ不審ノ第三ナリ、

第四 不 審

又曰ク御文ニ一心ニ彌陀ヲタノムコトヲ教ヘタマヘルニ、何ノ様モナク、ワ
スラヒモナクトアルニ、今行者心ニ覺ヘテタノムヲ自力ニシテ惡キユヘニ名號
ノイハレナキ、開クトキ覺ヘスタノムヘキナレハ、コレ彌陀ヲタノムコトノ大
様ナルナリ、又行者彌陀ヲタノミテモ、ソノタノミ様ニヨリテ自力ニナリテ往
生セストナラハ、コレ大ナル煩ヒナリ、シカルニカ、ルワツラフヘキコトヲ何
ノ煩ヒモナクトイフ大ナルタノミ様ノアルニ何ノヤウモナクトハ愚痴ノ者ヲ煩
キ玉フ道理ニアラスヤ是不審ノ第四ナリ、

第五 不 審

又曰ク御文ニ南無阿彌陀佛ノ相ヲヨク／＼コ、ロエワケテ彌陀ヲハタノムヘ
シ、又抑信心トイフハ阿彌陀佛ノ本願ノイハレヲヨク分別シテ、一心ニ彌陀ニ
歸命スル、相ヲヲ以テ、他力ノ安心決定ストハ云フナリ、之ヲ以テ見レハ名號
ノ謂レナキ、開ヒテ一心ニタノムヘキコトトミヘテ、聞キ開ク刹那ヲ、同時ノ
タノムコトニハキコヘス蓮師御一代ニ名號ヲキ、ヒラク同時ニ彌陀タノムヘシ
ト云フコトナキハ何故ソヤコレ第五ノ不審ナリ、

第六 不 審

又曰ク一心ニ彌陀ヲタノムトイフハ、行者ノ名號ヲ聞開クトキ覺ヘスタスケ
玉ヘト歸命スルコトナリト云ハ、元祖吾祖ノ両師ノ御教化ヨリ幽深ニシテ禪
ノ悟道ノ如ク聞ユルユヘ、愚痴ノ男女之ニ迷惑シテ、タノム一念ノコトハリ聞

得スシテ苦ニヤム者多シ、爾ルニ蓮師ハ、十アルモノサ一ニスル様ニ理ノカナ
フ様ニ、カロートキコエル様ニ教ヘ玉フ中興ノ功泯亡スルニ似タリ何ノ故ソ
ヤコレ不審ノ第六也、

第七 不 審

又曰ク彌陀ニ歸命ストイフハ名號ヲ聞開クトキニ、一念御助ケ候ヘト思フコ
、ロナリト云フコト道理アルコトナルヘシ、爾レトモダ、道理計リニテ行者自
ラ心ニ覺ヘス知ラサルユヘニ、唯容有ニナリテ、行者心ニナキコトニナリヌ、
蓮師何ノ故ソ、行者ノ情ニアリテ知リヤスキ信心ヲ教ヘスシテ情ニナキ知リ難
キ容有ノ理ヲ教ヘテ男女ヲ惑ハシメ玉フヤ是レ不審ノ第七ナリ、

第八 不 審

又曰ク彌陀ニ歸命スル一念ハ刹那ノ法ニシテ、行者自ラ覺ヘストスルユヘニ、

世上ノ男女彌陀ヲタノミタル、覺ノナキ者ハ我ハステニ彌陀ヲタノミタルヤ未
タタノマサルヤト惑ヒナケキ或ハ彌陀ヲタノムニ覺ノアルモノハコレハ自力ノ
コ、ロナラン、云何セント苦ムヘシ、サレハ彌陀ヲタノミタルコトノ覺アル者
モナキ者モ有無共ニナケクヘシ、蓮師何カユヘニ如是男女ノ惑ヒナケク様ニ教
ヘ玉ヘルヤ、コレ不審ノ第八ナリ、

第九 不 審

又曰ク彌陀ヲタノムトイフハ名號ヲ聞ク一念ニアリテ自ラ覺知セストナレハ
一念ノ時タノム道理アリテ、行者ノ情ニナキコトユヘ、改悔文ニ御ダスケ候ヘ
トタノミタル様ニ候ト申シ述フヘシ、然ルニ行者心ニ覺ヘスシテ情ニナキコト
ヲ情ニアリテ覺ヘタル様ニ御助ケ候ヘトタノミ申シテ候ト申シ述ルコト豈心口
各異ノ改悔文ニナルニアラスヤ是レ不審ノ第九ナリ、

第十 不 審

又曰ク若シ之ヲ通シテ、歸命ハ刹那ノ一念ニシテ、行者自ラ覺ヘストイヘトモ往生治定ト決定シテアルコレハ彌陀ヲタノミタル信心ユヘニ改悔文ニハ御助ケ候ヘトタノミ申シテ候ト云故ニ、心口各異ニアラストナレハ、今日クイヨイヨ、不審ヲ増シテ之ニ二ノ疑アリ、夫レハ云何トイフニ、改悔文ハ自督ノ信相ヲ述ルユヘ往生治定ト決定シタル心ヲ述ルナレハ、往生治定ト決定致シ候ト申シテ爾ルヘシ、何故ニ自督ノ信相ノアリノマ、ヲ述ヘスシテ、意ニ覺ノナキコトノ道理ヲサクリ求メテ御ダスケ候ヘトタノミ申シテ候ト云ヘルヤ、是レ疑ハシキノ第一ナリ、又歸命ハ刹那ノ一念ニシテ行者自ラ覺ヘストイヘトモ、今日往生治定ト決定シテアル、決定心ヲ以テ、己ニ彌陀ヲタノミタルト知ルナレハ、彼所ニ烟アルヲ見テ、火アリト知ルコトク、決定心アルテ以テ己ニタノミタル

ト知ルユヘニ、歸命ハ比量ノ法ニシテ、現量ニアラサルヘシ、爾ルニ元祖ハ念佛ヲ以テ信ナス、メ、吾祖ハ信ヲ以テ信ナス、メ、ミナ現量ノ法ナリ、蓮師ヒトリ相承ニ異リテ愚痴ノ男女ノ知リカタキ比量ノ法ヲ以テ信ナス、メ玉ヘルヤ、コレ疑ハシキノ第二ナリ、又御文ニ一心ニ二タ心ナク彌陀一佛ノ悲願ニスカリテダスケマシマセトオモフコ、ロノ一念ノ信マコトナレハカナラス如來ノ御ダスケニアツカルモノナリ、爾ルニ行者名號ノイハレテキクトキ覺ヘスタゾムコトナレハ、タノムコ、ロノ實ナルモ偽ナルモ虚實共ニ覺ヘサルヘシ、云何シテタノム心ノマコトナルヲ知ルヤ、爾ルニダスケマシマセトオモフコ、ロノ一念ノ信マコトナレハト述ヘ玉ヘルヲ見レハ、行者覺ヘスタノムコトニハキコヘヌ是レ不審ノ第十ナリ、

第十一 不 審

又曰ク御文ニナニノヤウモナク一スナニコノ阿彌陀ホトケノ御袖ニ等ト、コ
レハ御袖ニヒシトスカリ等トハ、喩ヘニヨセテ彌陀ヲタノム様ヲクハシク教ヘ
玉ルヘナリ、爾レハ行者心ヲ一ツニシテ餘念ナク後生タスケタマヘトヒシトダ
ノムヘキコトナリトミヘテ、覺ヘス知ラスダノムト云フコトク幽邃ナルヒトニ
ハキコエ難シ、爾ルニ名號ノイハレヲキ、ヒラクトキダスケ玉ヘノオモヒトイ
フコトナキ、ヒラク時ニオサメ、信スル時ニ攝シ、一念ノ道理ニ押込シテ詮ス
ル處タノムト云フコトヲ嫌フテ、御文ノ文ヲ曲ケルニ似タリ、スヘテ聖教ハ句
面ノ如ク伺フヘキニ、イハンヤ在家勸化ノ御文ヲマケルコトコレ不審ノ第十一
ナリ、

第十二 不 審

又曰ク彌陀ヲタノムコトハ刹那ノ一念ニシテ、行者自ラ不覺トスルトキハ、

スヘテ御文ノ御教化ミナク、詮ナキコトニナラスヤ、夫レハ云何ツナレハ、
今且ク近ク一文ヲ以テ述ルニ、御文ニ心ヲ一ツニシテ阿彌陀佛ヲフカクダノミ
マイラセテト一往タノムコトヲ教ヘテ更ニソレヲ委ク述テ、次ニ餘ノ方ヘ心ヲ
フラス等ト、如是蓮師大悲ノ御心口ヲツクシテ教ヘ玉フトモ、行者心ニ覺ヘサ
ルコトナレハ、心ヲ一ツニスルモ、一ツニセサルモ何ヲ以テ述ヘンヤ、餘ノ方
ヘ心ヲフルモフラスモ何ヲ以テ知ンヤ、助ケ玉ヘトオモフモ、スヘテ行者ノ覺
ヘサルトキハ、御文ノ御教化所詮ナキコトニナリヌ、サレハ御文ノ御教化ヲ案
スルニ行者覺ヘス知ラスダノムコトニハキコヘヌ是レ不審ノ第十二ナリ、

第十三 不 審

又曰ク御文ニ宿善開發ノ行者一念彌陀ニ歸命セントオモフ心ノ一念オコルキ
サミ、佛ノ心光カノ一念歸命ノ行者ヲ攝取シテ等、行者心ニ覺ヘスタノムナレ

ハ、彌陀ニ歸命セントオモフ事ナカルヘシ歸命セントオモフ心ロアリテ歸命セ
ハ何ソ覺知セサランヤ、又一念彌陀ニ歸命セントオモフコ、ロハ正クダスケ
玉ヘト歸命スル心ノ已前ナルヘシ、例セハ歎異鈔ニ念佛申サントオモヒタツコ
、ロノオコルトキトハ正ク念佛スル時ノ已前ナル如ク、彌陀ニ歸命セントオモ
フコ、ロノ一念オコル時トアルノハ、正ク助ケ玉ヘトオモフコ、ロノ歸命ノ時
ヨリ已前ナルヘシ、然レハ彌陀ニ歸命セント思フコ、ロオコリテ、後ニ正クダ
スケ玉ヘト歸命セハ、名號ヲ聞ク一念同時ニ歸命スルトイフコト聞ヘ難シ、コ
レ不審ノ第十三ナリ、

第十四 不 審

又曰ク御文ニ此オモムキナ心中ニオモヒ入レテ一念ニ彌陀ヲタノミダテマツ
ルコ、ロヲフカクオコスヘキモノナリ、行者名號ヲキクトキ覺ヘスシテタノム

コトナレハ、此趣キナ心中ニオモヒ入レテ云フコト聞ヘ難シ、又行者覺ヘス
タノムナレハタノムコ、ロノアサキフカキヲ何ヲ以テ知ルヤ、又行者オホヘス
名號ヲキクトキタノムコ、ロオコルナレハ、タノムコ、ロノオコルヘキナリト
アルヘキニ、左ハナクテオコスヘキナリトアリコレ不審ノ第十四ナリ、

第十五 不 審

又曰ク御文ニ阿彌陀如來ノ仰セラレケル様ハ等、行者本願ノイハレヲ聞クト
キ、覺ヘスタノムコトナレハ是レ如來ノ本願ヲアケテ之ヲキクヘシトス、メテ
爾ルヘシ、又タノムコトヲ述ルナレハ、此如來ノ仰セキクトキ阿彌陀佛ヲフ
カクタノミ奉ルトアルヘキニ、今如來ノ仰セキアケテ、次ニ夫レヲウケテ、カ
、ルトキハイヨ、阿彌陀佛ヲフカクタノミマイラセテトス、メテアリ、カ、
ルトキハイヨ、上ノ如來ノ仰セキウケテタノムコトヲス、メ玉ヘハ、如

來ノ仰セヲキ、テ後ニ、タノムコトニキコエテ、如來ノ仰セヲ聞ク同時ノダノ
ミトハ聞ヘ難シ、コレ不審ノ第十五也、

第十六 不 審

又曰ク帖外御文ニ、然レハミナ人ノ本願ヲタノムトイヘトモ更ニオモヒ入レ
テ彌陀ヲタノム人ナキカ故ニ、往生ヲトクルコト稀レナリ」コレ本願ヲタノム
トアリ、本願ヲキカサルモノ、本願ヲタノムトイフコトナケレハ本願ヲタノム
トアルノハ、本願ヲキ、タルナルヘシ、サレトモ唯本願ヲタノムトハ云ヘトモ、
後ニオモヒ入レテ彌陀ヲタノムヘキヨシス、メ玉ヘハ、是レ思ヒ入レテ彌陀ヲ
タノムトイフハ本願ヲキ、タル上ニ更ニオモヒ入レテタノムコトニ聞ヘタリ、
之ヲ以テ見レハ本願ヲキク同時ニ、タノムト云フコト是レト相違ス、又行者心
ニ覺ヘス知ラスニタノムナレハ、更ニオモヒ入レテタノムトイフコトナカルヘ

シ、爾レハ覺ヘテタノムヘキ事ト聞ヘタリ、是レ不審ノ第十六ナリ、

第十七 不 審

又曰ク帖外御文ニ其信心ヲトルトイフハ、何ノワツラヒモナク彌陀如來ヲ一
心一向ニフタコ、ロナク後生タスケ玉ヘトオモヒツメテ、ソノ外ノコトヲハ何
モウナスツヘシトアリテ、行者覺ヘスタノムコトナレハ後生タスケ玉ヘトオモ
ヒツメテ、ソノ外ノコトヲハナニモスツヘシトアレハ、行者心ニ覺知シテダノ
ムヘキコトニ聞ヘタリ、コレマダ不審ノ第十七ナリ、

第十八 不 審

又曰ク後世物語ニ、タトヒ欲モオコリ腹モタテトモ、シツメ難ク恐ヒカタク
ハ唯助ケ玉ヘト思ヘハ必ラス彌陀ノ大慈悲ニテ助ケ玉フヘキコト本願力ナルカ
故ニ攝取決定ナリト、コレ貪欲等ノシツメ難キトキ佛タスケ玉ヘトオモフヘキ

ヨシス、メ玉ヘリ、煩惱シツメ難ク恐ヒ難キニ付テ佛ダスケ玉ヘト思フトキハ
行者心ニオホヘテメノムコトナルヘシコレモ自力タノミナス、メ玉ヘリト云フ
ヘキヤ是レ不審ノ第十八ナリ、

編者曰ク圭洲師ハ宗餘乘ニ造詣深ク、特ニ道心厚ク念佛大利鈔ノ著アリシモ、故アリ本山ヨリ滅版
ヲ命ゼラレ今ハ傳ハラス、今一念覺不ニ付キ十八條ノ不審ヲ立ツル外ニタスケ玉ヘ續不續ニ付キ
十七條ノ不審ヲ立テ覺不ノ十八條ト併セテ三十五條ノ不審ヲ立テ、答案ヲ世ニ需メラレタリ、
其續不ノ十七條ハ今必用ニ非ラザルガ故ニ省略ス、予ハ他日續不續ニ付テ論セント欲スル志アリ、
其時ニ當テ之ヲ記載スルコトトセン。

七 風航寮司應答

三州ノ若林ノ圓樂寺圭洲ト云寮司カ三十五條ノ疑難ヲ書テ、需答ト云テ之
ヲ通スル人カアラハ承リタヒトマ、世間ニ於テ弘メテアル、其三十五條ノ初

ノ十八條條迄ノ間カ覺不覺ノ疑難ナリ、十九條條已後ハ續不續ノ疑難ナリ、覺
不覺ノ疑難ト云ハ後生助ケ玉ヘト云フコトニ覺ヘカナヒト云テハカヘリテ愚ナ
モノハ惑ヒ易ヒ、何ノヤウモナク何ノ造作モナク彌陀ヲタノムト御示シナサル
、御教化ノヤウニ思ハル、御文ニ彌陀ヲハ何トヤウニタノミ後生ヲハナニト
願フヘキソト云フニ何ノ煩ヒモナク只一心ニ彌陀ヲタノミ、後生助玉ヘト深ク
タノミ申サンヒトヲハト仰ラレ、又他力信心ノオモムキト云ハナニノヤウモナ
クタノミ奉リテトアリテ何ノ様モナク何ノ煩ヒモナク、一心ニ後生助玉ヘトダ
ノムヘキコトナラハソノ差別ヲ明カニシテ心ニ覺ヘテタノムハ自力ナリ、心ニ
覺ヘスタノムヘキト有ルヘキニ蓮師御一代ハナニノヤウモナク一心ニ後生助玉
ヘトタノムヘキヨシヲ勸メ玉フ覺ヘスシテタノメヨトハ一言モ簡ヒ玉ハス、或
ハ御文ニ南無阿彌陀佛ノ六字ノ相タチヨク、心得分テ彌陀ヲハタノムヘシト

仰ラレ、或ハソモく信心ト云ハ南無阿彌陀佛ノ本願ノイハレヲヨク分別シテ
 一心ニ彌陀ニ歸命スル方ヲモテ他力ノ安心決定ストハ申スナリト、此等ノ御意
 モ更ニ覺ナシニタノメト仰ラレタルコトノヤフニハ思ヒ難シ、爾ルニ正義家ノ
 説テハ當流ノ助ケ玉ヘト彌陀ヲタノムト云ハ覺ノナヒノカ正義覺ヘアリテタノ
 ムハ不正義ナリト云覺ナシニタノムカ正義ヲヤト云時ハ、カヘリテ愚ナモノハ
 禪宗ノ悟道ナトノヤウニ思ハレテ、心得難キニハ非スマト云ニ付テ十八ヶ條程
 ノ是一ツノ不審是二ツノ不審等ト云テ數々ノ文カ擧テ疑難カ設ケテアルナリ、
 コノ十七八ヶ條ノ疑難數ハ多ケレトモ覺不覺ノ中テタノム一念ニハ覺ノナヒ筈
 ノコト覺ノアルタノミナラハ思慮分別ニ亘テ起ル助玉ヘ故ニ他力トハ申シ難ヒ
 ト云フ事サヘ一ツ明カニナルト、コノ疑難ハコトくクツフレテ仕舞フナリ、
 若タノム一念ニ覺ヘカアリテタノムナリト云ハ、自力ノ計ヒヲモテタノムト

ヨリイヘヌ、覺カアリテタノムト云トキハ審慮決定動發ノ三思ニ渡ラテハナラ
 ヌ、先ツ審慮思ト云トキハ物ヲ聞テ虚言テアロフカ本眞テアラフカ、行フカ置
 フカト思慮分別ヲメクラス位ヒカ審慮思、決定思ト云ハイヨく本眞ニ違ヒナ
 ヒト決定シテイヨく本眞ニ行マセフト云心ニ定ルソレカ決定思、動發勝思ト
 云ハ其ノ決定思ヨリソノコトヲ取り行ヒニカ、ルコト、之ヲ安心ノ思ハクニ掛
 テミルトキハ、善知識ノ御教化ヲ聞テタノムモノヲ助ケフノ御教化ナヤカ、コン
 ナモノカタノム位テ助ラレルカ助ラレヌカ、併シ助ケフトアル御教化ユヘニ云
 何テアラフソト二ノ足ヲ踏テ思案シテ居ル間カ審慮思ナリ、タノムモノヲ助ケ
 ルトアル本願ニ虚妄ハナヒ故ニイヨくタノメハ助カルニ間違ナヒ、依テタノ
 ンテ御助ニ預ラフト心カ決擇シタ處ヲ決定思ト云、サラハ御助ケ下サレマセト
 タノンテカ、ルカ動發勝思コレ明ニ覺ヘアリテタノムト云ヘハ必ス審慮決定動

發ノ三思ニ亘ラテ起ラヌコト、コノ如是三思ニ亘テ發ル助玉ヘテナケテハ覺カアルトハイヘヌ三思ニ亘テ覺ヘカアリテタノムナラハ、己カ計ヒカラ起ル助玉ヘトナル故ニ自力ノ助玉ヘナリ、今御正意ノ助玉ヘハ名號ノイハレナ聞ク一念ノ下ニコノ三思ヲ歷ス、直ニ發ル助玉ヘユヘニ覺ヘハナキナリ、其覺ノナヒト云ニ三ツノ道理カアリテ、一者他力發起ノ一念ナルカ故ニ、己カ心テ審慮決定動發ト次第シテ起ル助玉ヘニハアラス、聞其名號ノ一念ニ彌陀願力ノ御計ヒテ我々カ心中ニ引發シテ下サル、助玉ヘナリ、故ニ彌陀如來ノ御方便ヨリ起シムルモノナリトモ如來選擇ノ願心ヨリ發起スルトモノ玉フ、自身ノ發起テ起ス助玉ヘナラハ覺ヘモアルヘシ、他力發起テオコル所ノ助玉ヘニシテ審慮決定動發ノ三思ニ亘ラサル助玉ヘユヘニ覺ナシト可知、

二者短促刹那ノ一念ナルカ故ニ覺ナシ、助玉ヘノ一念ハ間ニ髮テ容レヌ手早

キ所ノ一念ナル故ニ、アラノシキ凡夫ノ心テハ思ヒ味ヒカダク故ニ覺ハナヒ、一念一刹那ナト、アル時尅ノ極促キハメテミシカキ一念ナリ、婆娑論ノ中ニ早キコトヲ段々御説ナサル、處ニ天竺ニ於テ矢ヲ射ル上手者アリテ同シヤウナ上手カ東西南北ノ四方ニ立ナラント四方ニ向テ一度ニ矢ヲ放ツ、爾ル處足早ナモノアリテ其矢ノ下ヘ落ヌウチニ走り廻リテ矢ヲツカント仕舞フ、夫レヨリ早キカ地行夜叉夫ヨリ早キカ空行夜叉、夫ヨリ早ヒカ堅行天子、コレハ日月ノ車ヲ引テ走ルトコロノ天子、如此段々クラヘテ刹那ト云カ一番ハヤヒ其刹那ニモ二ツカ分レテ、日夜ノ刹那ト生滅ノ刹那トノ二ツカ分レテ、日夜ノ刹那ハ時尅ノ一番永キカ切、一番短キカ刹那ナリトアル、信卷ニ一念者斯顯信樂開發時尅之極促ト云ハ生滅ノ刹那ニアラス、日夜ノ刹那ニシテ時尅ノ縮リタ至テ手早キ短キ故ニ、前ニ辨スル眞要鈔ハ極促ノ二字ニキハメテミシカキト云御左訓ア

リ、勝曼寶窟中之末外國テハ刹那ト稱シ、此ニ一念ト云ト釋シテアリ、又唯識述記三之末ハ一念ハ刹那ノ異名ト釋シテアリ、梵ニ刹那ト云、漢ニ一念ト云、時尅ノ短ク縮リテ手早キ一念ユヘニアラシキ凡夫ノユ、ロテハ助玉ヘノ一念ニ覺ヘハナキ筈ナリ、往生要集御引用ノ維無三昧經ニハ一人一日中、八億四千萬、念々中所作、皆是三途業、一善念得一善報一惡念得一惡報如響應聲影隨形ト説テアル、今日ノ我々ハ毎日々々八億四千萬念ノ念慮ヲ起シナカラトシテ念慮ヲオキタヤラ惡ノ念慮ヤ善ノ念慮ヤラ自身ニ起シナカラ更ニ覺ハナヒ是何故ナレハ起ルニ相違ハナケレトモ細ナル手早キ念慮故ニ、覺ヘハナキナリ況ンヤ他力發起ノ助玉ヘノ一念ニシテ、尤モ手早キ微細ノ一念ナルカ故ニ覺ヘノアラフ道理ハナヒ、

三者他力歸入ノ助玉ヘユヘニ覺ハナキナリ、覺師御式文ニ我祖ノ御領解ヲ御

述ナサレテ、至心信樂忘己速歸無行不成之願海トアルナリ、併シ己ヲ忘ル、トハ自力ノ計ヒサステ、助玉ヘトタノミ乍ラタノム手元ヲ打忘レテ助玉ヘトナル相タ、山科連署記ノ中ニ山科ニ於テ蓮師御病中ニ京都ヨリ小五郎ト云能役者ヲ御召ニナリテ、鶯ノ狂言ト云カアリテ、餌差カ竿ヲモテ鶯ヲ指フトスル所カ其サソフト思フエサシカ鶯ニ心ヲ奪レテ腰ニサケテ居ル印籠モ脇指モ脱ケテ落ルモ帶カトケテヒキスルヤウニナルモ知ラスタ、鶯ノミニ性根ヲ奪レテサソウシテ居ル狂言、ソレヲ蓮師御覽ナサレテ御意ニカナフテ彌陀ヲタノムモ其如ク、今ノ鳥差カ鶯ニ心ヲ奪レテ己カ相タヲ打忘レ相タニハ目ハツカヌ彌陀ヲタノムモ己忘レテ己カ相タノ機様ニハ目ヲカケヌト難有喜ヒ玉ヒタト云コトアリ、是レ他力歸入ノ助玉ヘニシテタノミ乍ラ更ニタノム手元ニ覺ヘハナキト可知、

上來三義ヲ以テ通スル他力發起ノ一念ナルカ故ニ、短促刹那ノ一念ナルカ故ニ他力歸入ノ一念ナルカ故ニ覺ノアル道理ナシ、去ナカラ覺ノアルトナヒトテ自力他力ヲ分ルト云解シ方カアリテ、覺ノナイノカ他力、覺ノアルノハ自力ト、覺ト不覺トニテ自力ト他力ヲワケル學者モアレトモ、覺不覺テ自力他力ハ分ケ難キナリ、龍天ノ二菩薩ノ如キハ初一念ニ覺モアルヘシ、智恵モ微細ナルカ故ニ、龍天ノ如キハ初一念ニモ覺ヘモアルヘシ、我等如キアラシキ凡夫ノ心テハ覺ノアル道理ハナヒ、依テ覺ノアルトナヒトテ自力他力ハ分ケ難キナリ、問云何カ故ニ如是手早く往生ノ業事ヲ成辨セシメ玉フヤ、答フコレハ口傳抄下ノ終リニ如來ノ大悲短命ノ機ヲ本トシ玉ヘリ、若多念ヲモテ本願トセハ命一刹那ニ縮ル無常迅速ノ機イカテカ本願ニ乘スヘキヤ、サレハ眞宗ノ肝要一念往生ヲモテ淵源トスト仰ラレテアリ、手間日間ノ入ル助玉ヘナラハ今命終ントス

ル臨終ノ機迄モ洩スマヒノ御教化カ一言耳ヘ届クナリ助玉ヘト起ルナリ、ソノトキ往生ノ業事成辨シテモラスマヒト彌陀ノ大悲ヨリ多念ヲ以テ本願トシ玉ハサルハ手早キ處ノ助玉ヘノ一念ニ往生ノ業事成辨セシメ、必ス迎ヘ取ント云御慈悲ヨリ短促刹那ノ一念ヲ業事成辨セシメ下サル、ナリ、上來ノ如ク辨スルトキハ有覺不覺ノ中テ、御正意ノ助ケ玉ヘハ何處マテモ無覺ノ一念テナケチハナラヌ、ソノ上案スルニ聽聞ノ相タニ御文ノ御教化ノ上カ聞ノ位ト信ノ位トノ二ツヲ御分ケナサレテアルヤウナリ、五帖目通ハノ御文テナレハコレニヨリテイカナル十惡五逆五障三從ノ乃至コノオモムキチウダカヒナク信セントモカラハ眞實ノ彌陀ノ淨土ヘ往生スヘキモノナリ、一心一向ニタノメヨト信相ヲ雙ヘ擧テ御聞セチサル、ハ聞ノ位ヲ顯シ玉フ、其述顯シ玉フトコロカ心ヘホントウニハマリ込ンタ處チコノオモムキチウダカヒナク信セントモカラハトアリコレカ信

ノ位、末代無智ノ在家止住ノ男女タラントモカラハ、乃至念佛往生ノ誓願ノコ
、ロナリ、是迄ハ聞ノ位カクノコトク決定シテノウヘニハトアル處カ信ノ位或
ハ又タノムモノヲ助ケフノ名號ノ由レテ御述ナサレテコノ趣ヲ思ヒ取テノ上ニ
ト仰ラレテ、前ニタノムモノヲ助ケフノ由レテ述顯シ玉フ處ハ聞ノ位カヤフニ
思ヒ取テノナハトアルハ信ノ位、聞ノ位ノ御化導ヲ眺メテ信ノ位ノ御教化ト
一ツニシテ御文ヲミタユヘニ聞ノ位ハモトヨリ慥ニ聞アリテ聞カニヤナラヌ覺
アリテ聞ク相タテ仰セラレテアリ助玉ヘト覺ナクタノムトハ信ノ位ノコト、聞
ノ位ノ最後ノタノミサヘスレハ助カルト決得シタ信ノ位ノ處テハ覺ハナヒ、今
ノ圭州ノ意テハ聞ノ位ト信ノ位トチ分テ伺ハサル故ニ右等ノ誤リカ起リタカト
存スルナリ、

問云助玉ヘノ一念ハ短促刹那ノ一念ニシテ覺ノナキチ正義ト云トキハ禪宗ノ

以心傳心ノ悟道ニ類スルニアラスヤ、悟道ニ類スル無覺ノ一念チ正義ト云トキ
ハ愚鈍ノ在家尼入道ハカヘリテ惑ヒチ生ジテ心得難キコトニナルニ非スヤ答云
禪宗ノ悟道ト云ハ實有ニ迷フテイルモノニ、真空チ證ラセルノカ禪宗ノ悟道依
テ實有ニ迷テ居ルモノカ真空チ證ルト云トハ大ニ異ナリ、覺カアリテハ惡イテ
覺ヘノアルコトチ無ニシ空ニスルナラハ有チ空ニスル禪宗ノ悟道ニ類スルト云
ヘシ、初一念ノ起ルトコロノ助玉ヘノ思ヒチ無ニシ空ニスルニハアラス助玉ヘ
ノ思ヒハ手慥ニ起リナカラ、而モ短促刹那ノ一念ナルカ故ニ助玉ヘトオモフ心
ハシツカリトアリナカラ覺カナヒト云ノナリ、助玉ヘト思フ心ノアルチ無ニ
スルニハ非ス助玉ヘトタノムニ違ハナケレトモ極テ短キ一念ナル故ニアラノ
シキ凡夫ノコ、ロテハ覺カナヒト思フノテコソアレ、思フ心迄無ニシテ空ニス
ルニハ非ス爾レハ己チ忘レテ覺ナク助玉ヘトタノムカ他方發起ノ一念歸命ナレ

ハトテ禪家ノ悟道ニ更ニ類スルニハ非スト知ルヘシ、

八 清涼閣僧亮師 (清涼遺芳)

問時尅ノ一念トハ實時ナリヤ假時ナリヤ、答或云凡ソ一念ニ就テ勝義ノ一念
事究竟ノ一念ト云フコトアリ、勝義ノ一念トハ極短時ニシテ凡慮ノ測リ知ル處
ニアラス、言説ニ述_レ叵_シ 言説ノ相ヲ離_レタルヲ勝
義ト云フハ瑜伽論等ニ出此ノ時ハ聞信ノ違アルヘカラス、
今ハ時究竟ノ一念ナリト、今云假實兩時ニ約スルトキハ假時ナルヘシ、信樂開
發ノ時トノ玉フカ故ニ、又事究竟ノ一念ト云ハ、コノ中ニ又延速アリ、今佛智
印現ノ時我等カ疑情消除スル時節ナレハ定テ速疾ナルヘシ、併ラ實時ヲ以強テ
配當スヘカラス、唯是速疾頓成ヲ顯メ一念ト云ナリ、經ニ一食之頃一念之頃一
發意頃等ミナコレ言別義同ニシテ實時ノ長短ニ配シテ論定スルコトニアラス是

故ニ(信卷)ニハ一念須臾之頃超證等ト云、又臨終一念之夕等ト云又行卷ニハ刹
那成佛スル等ト云、是等モ實時ニ約ハ一念ト須臾トハ大ニ長短アリ、今ノコ、
ロハ一念モ刹那モ須臾モミナ一ト束子ニシテ長短ヲ分タルコ、ロナリ應知、

九 足利義山師 (真宗百題啓蒙(四百四十二頁))

問時尅ノ極促トノ玉フノ時尅トハ是レ實時ナリヤ將タ假時ナリヤ、答論註上
^三右ニ云フ此中云念者不取此時節也ト、百一生滅等ノ實時ヲハ取ラストノ玉
フモノ、觀想ト稱名トニ於テスト雖モ既ニ行ニ於テ取ラサル義ヲ信ニ於テ取ル
ヘシト云理アル可ラサレハ別ニ信ニ於テ談スルノ確證ナクンハ採用スヘカラサ
ルナリ、若シ時尅ノ極促ト云ニ付テ、電光石火ヨリモ刹那生滅ヨリモ速疾ナリ
ト談セハ是實時トスルノ説ニシテ即チ信一念ノ時尅ノ長短ヲ凡慮ヲ以テ測量ス

ルナルヘケレハ今ノ採ラサル所ナリ、此ヲ實時トシテ幾生滅何刹那也トセハ、諸經論ニ異説アリテ長短不同ナリ何ヲ所依トスルヤ若シ一切ノ經論所説ニ超過シテ速疾ナリトセハ即無念ノ義トナルヘシ、

問云輔行入之二ニ一念ノ十二因縁ヲ釋シテ、言一念者非言極促一刹那時謂善惡業成爲一念ト云ヒ、義寂ノ言一念者以事究竟爲一念非唯生滅刹那等謂聞佛名歡喜廻向願生此事得成以爲一念ト云モノ、今ノ一念ノ釋ニ採用シテ然ルヘキヤ、答古人今經ノ一念ヲ事究竟ナリト定メ而シテ三業歸命ノ事究竟或ハ心念口稱ノ事究竟トスルノ非ナルハ辨ヲ俟タスシテ知ルヘシ、只タ信心發得シテ眞因決定スルコトノ成辨ヲ云フ言トスルノ例トハ一分取ルヘキ歟ナレトモ事ト云ヒ業ト云フ名ハ輔行義寂俱ニ自力ノ造作ニ就クモノナレハ遲速淺深等ノ差アルコトナシ故ニ其儘ニハ採用スヘカラサルモノナリ、

同師 同 (四百四十四頁)

問極促ノ一念行者覺知ノ有無云何、答此間汎爾ナリ、若シ獲信ノ年月日時ノ覺不ナラハ其覺知必ス有ルヘシト云ヒシハ是三業惑者ノ所談ナレハ、今何ソ之ヲ取ラン、又獲信ノ當時ニ於テ今我ハ信心ヲ獲ツ、アリト思フカ如キ勅命ニ信順スル心相ノ外ニ別ノ思念ヲ起スヤノ問ナラハ、今亦之ヲ取ラサルナリ、論註ニ但知多少復非無問若凝念注想復依何可得記念之多少トノ玉フノ例ニテ一心ニ願力攝取ヲ仰信スルノ外何ソ他ノ念想ヲ生スルノ暇アラシヤ、又獲信ノ後念ニ於テ我ハ前念ニ於テ已ニ信ヲ得タリト知ルカ如キ覺知アリトスルヤノ問ナラハ此レ亦有無不定ニシテ必スアリトモ云ヒ難キカ如シ、何トナレハ獲信ノ後念即チ餘想ニ轉シテ、自ノ信心ノ獲不ニハ心ヲ止メサル人モアルヘキカユヘナリ、又設ヒ我レハ前念ニ日頃ノ疑惑忽チ晴テ往生安堵ノ想ニ住シタリト思フ

人アリトスルモ、其想念ハ獲信行者タランモノ悉ク必スアルヘシトモ云可ラス、
機受ノ信相トハ別ナルカ故ナリ、畢竟スル所己ト獲不ニハ心ヲ措スシテ、但タ
攝受衆生ノ願力ヲ仰信シテ決定往生ノ想ニ住スルノ外他ノ想念ハ一切所用ナキ
ナリ、若シ問者ノ意口所云石蛭之噉、甘刀之割、則無覺知ト云カ如キ無想ナ
ルヲ無覺知トスルナラハ答ヘテ無ニ非ス有ナリト云ハントスル也、抑々聞信歡
喜ノ一念ナルニ何ソ無覺知ナルコトヲ得ン、既ニ名義ヲ聞テ聞ク儘ニ領解スル
當体即無疑ノ信心ナリ、其領解ナルモノ極睡眠ノ時等ニ於テ作ス可ラサレハ領
解ハ覺知ニ非ストハ云難カラシ、然リ而シテ信一念若シ無覺知ナラハ聞テ領解
スルノ前ニ發スルモノトスヘキヤ、後ニ起ルモノトスヘキヤ、恐ラク之レヲ容
ル、ノ處ナルヘキ也、

問初一念ニ念想アリトスルノ文據那處ニアリヤ、答其文是多シト雖モ今其一

二ヲ出サン、寶章丁四ニ云イマノコトハリナキ、ヒラキテ往生治定トオモヒサタ
ムルクヲ并テ一念發起等、眞要鈔二左云隱ニハ眞因ヲ決了スル安心ノ一念ナリ
乃至タ、カノ如來ノ名號ヲキ、エテ機教ノ分限ヲオモヒサタムルクヲ并テサス
ナリ等其他二種深信ヲ和述シ玉フ文等不違枚擧、

同師 眞宗安心三十題啓蒙(二十八頁)

問初一念ハ時尅ノ極促ナレハ行者其念相ヲ覺知スヘカラスト云フ說アリ是非
云何、答此說極促ト云テ實時ト認メ電光石火ヨリモ疾ク一刹那ヨリモ速カナリ
ト定ムルノ誤謬ヨリ生スルナラン抑々聞信歡喜ノ一念ナルニ云何カ無覺知ナル
コトヲ得ンヤ、既ニ名義ヲ聞テ聞ク儘ニ之ヲ領解スル當體即テ信心歡喜ナリ、
其領解ハ即テ覺知ナレハ、若シ一念ヲ無覺知トセハ、聞テ領解スルノ前ト云ヘ
キヤ又後ト云ヘキヤ、恐ク此ヲ容ル、ノ處アルヘカラサル也但シ覺知アリトス

ルモ、信後ニ於テ獲信ノ年月日時ヲ必ス記憶スト云ニハ非ス、又我カ信一念ノ時ハ斯ク思ヒタリト心相ヲ記憶スト云ニモ非ス、又獲信ノ際ニ方リテ我ハ今マ信ヲ得ツ、アリト云カ如キ願力ヲ信受スルノ外ニ別想アリテ併起スト云ニモ非ス但タ無念無想ニ非ルヲ云ナリ、

問初一念覺知アリトスルノ文據云何、答寶章一四イマノコトハリナキ、ヒラキテ往生治定トオモヒサタムルクラ井チ一念發起等、眞要鈔二云隱ニハ眞因ヲ決了スル安心ノ一念ナリ止タ、カノ如來ノ名號ヲキ、エテ機教ノ分限ヲオモヒサタムルクラ井チサスナリ其他枚擧ニ違アラス、

同師法義示談集 (百三十五頁)

信ノ一念ト云フハ、時尅ノ極促チアラハスト釋シ玉ヘトモ、思フ間モナキハヤキコトナリナト、イフコトニハアラス、六十刹那チ一念ト云フ事モアレト、

此時節チハ取ラサルナリト、曇鸞大師ノ論註ニ仰セラレタレハ、信ノ一念ニ關シ右様ノコトハ云ハレヌ事ト心得ヘシ、其名號ヲ聞キテ信心歡喜スル一念ト成就ノ文ニ説キ玉ヘハ、男女善惡ノ凡夫チハタラカサス、ヒトヘニ佛ノ御力ニテタスケスクハント喚掛ケ玉フコトヲキ、テワカハタラキチマシヘス、マルマル佛ノ御助ケニアツカルコト、信受スル初メテノ念チ信ノ一念トハ云フナリ、此信受ハ何程ノ時間ヲ經ルコトナリト、凡夫ノシラルヘキニアラス、又知ルニモオヨハヌ事ナリ、サテ又我ハイツカ信ノ一念テアリシト知ルニモ及ハス、タ、願力ノ御陰ニテイツ命チハ終ルトモ、往生セシメ玉フコトヲ幾度モ仰キ奉リテ稱名相續スルハカリナリ、ソノ外イロノ法門ノ義理ナトハ、唯ヨロコヒノ御縁ニスルノミノコトニテ、シラスチホヘストモ、又少々トリナカヘナトスルトモ、往生ニハ一切關係チキコトナリ、

二、正述自義

一 一念兩釋ノ義意

○二正述自義トハ、問信卷御自釋八十一一念者斯顯信樂開發時尅之極促(約時尅)トノ玉ヒ、同九十一言「一念者信心無二心故曰一念(約信相)」ト兩釋テ設ケ玉フ祖意如何、

答曰其時尅ニ約スル者ハ真因決定ノ時刻ヲ定ムル者ニシテ弘願速疾ノ妙用ヲ顯スモノナリ、行卷御自釋七即言「由聞願力光闡報土真因決定時尅極促也」トアルト位ヲ同クシテ、一ハ受法ノ初際ニ名ケ念ハ時刻ノ稱ナリ、蓋シ成就ノ乃至一念ヲ下ノ即得往生ニ望メテ解ス義ナリ、又信相ニ約スル義ハ凡愚領受ノ信相ヲ示スモノニシテ、論ノ一心ニ同シテ、一ハ無二無疑ノ義、念ハ心ト

云フニ異ナラス、故ニ無二心故曰一念是名一心トノ玉フ、是レ上ノ聞其名號信心歡喜ニ望メテ解ス義ナリ、乍去常ニ曰フ一文兩義トハ異リ、信相ノ儘時尅也、信相ハ成スル頃ノ時尅ニシテ即チ唯佛知見也、而モ自ラ速ノ義ナリ、信卷ニ一念須臾之頃又臨終一念之夕トアルニ同シ、

問曰輔行八ノ二ニ一念ノ十二因縁ヲ釋シテ、言「一念者非言極尅一刹那時謂善惡業成爲一念ト云ヒ、又義寂ノ言「一念者以事究竟爲一念非唯生滅刹那等謂聞佛名歡喜廻向願生此事得成以爲一念ト云モノ、今ノ一念ノ釋ニ採用シテ然ルヘキヤ、答成故ノ一念トハ、刹那等ノ實時ニ非ラサルコトハ已ニ玄簡大師ノ指南ニシテ、真因決定スルコトノ成滿ヲ顯ハス言ナレハ事究竟ヲ顯ハス一分ノ例證トナスヘシト云ヘトモ、彼事ト云ヒ業ト云フ名ハ輔行義寂俱ニ自力ノ造作ニ就ク者ナレハ、全分採用スヘカラス、自力ノ造作ハ人ニ隨テ究竟成就

ニ遲速アルヘシ、今ハ全然願力廻向ニシテ一毫ノ造作ヲ用井サレハ、遲速淺深等ノ差アルコト無レハ、輔行義寂ノ釋ヲ以テ全分アテハメルコトハ出來ヌ、

六〇

二 時刻之極促トアル義意

問曰吾祖信卷ニ一念ヲ釋シテ時尅ノ極促トノ玉フ義意如何、

答曰時尅ノ極促トノ玉フハ時ヲ隔テス日ヲ隔テス往生ノ業事成辨スル時ノ速カナルコトヲ顯シ玉フ教語ニシテ、凡夫ノ淺薄ナル心ニテ、今ヨリ助ケ玉ヘト思ハントシ、又今思ヒツ、アリ、又已ニ思ヒシ杯ト、計度分別ニ亘ルヘキ時刻ニアラス、已ニ畧本^三乃至一念者是^レ更ニ非言觀想功德徧數等之一念就獲得往生心行時節延促言^レ乃至一念也トアリテ、徧數等ニカ、ワラス、信心ヲ得ル時ノ速疾ナルコトヲ顯ハス、故ニ一多證文ニ一念ト云フハ信心ヲ得ル時ノキハマリ

ヲ顯ハスコトハナリトノ玉フ、而シテ此一念ヲハ通途ノ説テハ刹那ノ一念、生滅ノ一念、或ハ一念ノ間ニ、六百ノ刹那又ハ六十ノ刹那アリ等ト論定スルコトナレトモ、當流ノ一念ハ、斯ル通途ノ法相ヲ以テ律スヘキ限りニ非ラス、タ、名號ノイハレテ聞信スル立處ニ佛ノ方ヨリ往生ハ治定セシメ玉フカ故ニ、淺薄ノ凡情計度分別シテ彼是ト思ヒ計ラル、者ニアラス、之ヲ時尅ノ極促トノ玉フナリ、

三 一念ヲヒトオモヒト訓スル説ノ可否

問曰世間ニ於テタスケ玉ヘト思フ一ト念ヒノオコル時ト一念ノ二字ヲヒトオモヒト訓スル説アリ可否如何、

答、一念ヲヒトオモヒト訓セハ、二念三念アルヘシ、此二念三念ニ對シテ一ト念ヒト云フコトニナルトキハ、信ニ一多ヲ成スル失アリ、且ツ世間ノ針灸ノ

六一

治療杯スルトキハ痛ヒモ熱ヒモ一ト念ヒ杯云フニ濫シ、彼三業意業ノ一念ノ妄覺ヲ認メテ信心決定トナス者ニ濫ス、且ソ今家ノ聖教中一念ナ一ト念ヒト訓シ玉フ明文ヲ見ス、故ニ一ト念ヒト訓スルコトハ賛成シ難シ、

問曰爾ラハ禮賛後序ノ文ニ、若有衆生稱念阿彌陀佛若七日及一日乃至十聲乃至一聲一念トアルカ如キ、後ノ一念ヲ上ノ七日一日ニ對セハ、散善義ノ上盡一形下至一日一時一念トノ玉フ如ク、一念トハ短促ノ時尅ト解スヘキモ、上ノ十聲乃至一聲ノ言ニ對セハ、聲ニ對スル念ナレハ、口稱ニ望メテ心念トシテ一ト念ヒト解スモ敢ヘテ妨ナキニ似タリ如何、

答曰行ニ一念十念アルカ如ク、信ニモ亦一念十念等ヲ論スヘシトスル説ナキニ非サレトモ、眞要鈔ニ上ニ云フ處ノ十念一念ハミナ行ニツイテ論スル所ナリ、信心ニツイテイハントキハ一念開發ノ信心ヲ初トシ、一念ノ疑心ヲマシヘス念

々相續シテ彼願力ノ道ニ乗スルカ故ニ名號ヲ以テマタクワカ行體トサタムヘカラサレハ、十念トモ一念トモ云フヘカラス、タ、他力ノ不思議ヲアフキ、法爾往生ノ道理ニマカスヘキナリト云フニヨレハ、信ニ多念ナシト云フヘシ、況ンヤ御文一帖第四通ニ禮賛ヲ引テ信行相望ノ一多ヲ示シ玉ヒ、又二帖三通サレハ先達ヨリウケタマハリツタヘシカ如ク乃至一念ヲ以テハ往生治定ノ時尅ト定メテソノトキノ命ノフレハ自然ト多念ニヲヨフ道理ナリコレニヨリテ平生ノトキ一念往生治定ノウヘノ佛恩報盡ノ多念ノ稱名トナラフトコロナリトアル指南ニヨレハ、信行相望シテ一多ヲ論スルカ眞宗一定ノ教示ナリコノ先達ヨリナラフトハ、口傳鈔一多證文等ヲサス、口傳鈔下ニイハユル上盡一形下至一念トラ釋セラル、コレソノ文ナリ、シカレトモ下至一念ハ本願ヲタモツ往生決定ノ時刻ナリ、上盡一形ハ往生即得ノウヘノ佛恩報謝ノツトメナリ、其コ、口經釋

顯然乃至サレハイクタヒモ先達ヨリウケタマハリツタヘシカコトクニ他力ノ信
 ナハ一念ニ即得往生トトリサダメテソノトキイノオハラサラン機ハイノナア
 ランホトハ念佛スヘシコレスナハナ上盡一形ノ釋ニカナヘリ」云々、是レ其本
 ト一多證文ニ一念ヲヒカコト、思フマシキノ章ニハ信ヲ出シ多念ヲヒカコト、
 思フマシキ章ニハ純ヲ稱名ヲ明シ玉フニ出テ、或ハ一多ノ名ヲ出サ、ルモ信
 ハ一念ヲ明シ行ハ後念相續トシ玉フ文數フルニ違アラス、信ハコノ一念臨終マ
 テトホルト談シテ多念ノ説ナシ、之ニ依テ之ヲ思フニ信ニ多念ヲ立テサル説宗
 意ニ契當スル歟、

問爾ヲハ古德傳四七十四凡夫出離ノ要道淨土ノ一門念佛ノ一行ニシクハナシ、
 其機ヲ云ヘハ十惡五逆四重謗法闡提破戒破見等ノ罪人、其行ヲ論スレハ十聲一
 聲イカナル嬰兒モトナヘツヘシ、ソノ信ヲ云ヘハ一念十念イカナル愚者モオコ

シツヘシ」トアルニ準セハ、信ニ一多ヲ論スルニ似タリ如何、答云彼ハ信ヲ行
 ニ從ヘテ假リニ十念ノ數ヲ立テ、易行易修ノ義ヲ明シ玉フ相從ノ義門也、十願
 十行ノ如シ、十行ノ言ニ從ヘテ十願トノ玉フ今亦然リ若然ラスシテ信ニ一多ア
 リト云ハ、幾何ノ間チ一念トシ二念トスト云フヘキヤ、

四 言亡慮絶ノ一念ニアラサル事

問云今家ノ信スル一念タノム一念ハ覺ナリヤ不覺ナリヤ若不覺ナリト云ハ、
 彼聖道家ニ談スル四句百非ヲ離レタル言亡慮絶ノ禪家ノ悟道ノ如キ者ナリヤ、
 果シテ然ラハ覺悟花解ト云ヒ、又願樂覺知ト云ヒ、又信卷六要五六菩提心ノ心
 ナ慮知心ト判シ玉ヘル明判ニ違ス、之ニ依リテ若シ覺アリト云ハ、何年何月
 何日何時ト記憶スヘシ、如是凡夫ノ思想分別ニ亘レルモノ、豈他力信心トイフ

六六
ヘケンヤ、答曰此義一家ノ要論ニシテ輒ク決スヘキニアラス、古今ノ學者苦心
焦慮スル所タリ、今日ク當流ノ信心ハ聖道家ニ談スル中道說ノ如キ、高尚幽深
言亡慮絶ニシテ其心相說クヘキニアラス教ユヘキニアラストナスカ如キ者ニア
ラス、又自己ノ信心決定ハ佛邊ニ於テノ決定ニモアラス、他人ヲ雇フテノ決定
ニモアラス、又極睡眠ノ時ニモアラス、又夢中ノ感得ニモアラス、執持鈔ニ曰
ク平生ノ時善知識ノ言ノ下ニ歸命ノ一念發得トアレハ宿善開發ノ行者善知識ニ
遇フテタノメ助ケフノ佛勅ヲ聞開キ往生治定ト思ヒ定ムル一念ノ信ナレハ、無
念ニモアラス無想ニモアラス、言亡ニモアラス慮絶ニモアラス、爾レハ約信相
ノ一念ハ覺知覺悟アリト決擇スヘシ、故ニ信卷三信字訓欲生八訓ノ中願樂覺知
ノ字訓ヲ出シ、又同信卷六要五六天台止觀ヲ引キ、慮知心ナルコトヲ證シ玉フ
文ニ曰ク止觀一ニ云ク菩提者天竺語此稱道質多者天竺音此方云心者即慮

知也」ト、覺師ハ御式文ニ覺悟花鮮トノ玉フ、此等ノ明判ニ依ルトキハ無念無
想ニ非ス、タノム一念ハ覺悟解了ノ信相アルコト明ナリ、

五 一念記憶ノ有無

問曰、爾ヲハ何年何月何日何時ニ何處ニ於テ決定セリト云記憶コレアル者ナ
ルヤ、

答曰、何年何月何日何時何處ニ於テ獲信シタリ等ト云フハ、凡夫執心ノ機情
ニシテ至徳ノ風ハ靜ニシテ衆禍ノ波轉シタル大信海中豈如是執心機情ノ自力妄
覺ノ波瀾アラシヤ、今云フ所ノ覺悟解了トハ、他力廻向ノ信相ニシテ、佛智所
見ノ覺ナリ、豈凡夫心中ニ分別構造スル妄覺ト日ヲ同フシテ論スヘケンヤ、依
之一言以テ之ヲ判セハ

約他力廻向、信相

覺

約自力執心、機情

不覺

六 願樂覺知之義意

問先キニ出セル信卷三信字訓ノ願樂覺知トハ果シテ其義如何ソヤ、

答曰信卷ニ本願ノ三信ニ付テ、三十三訓ヲ擧ケ玉フ中、欲生ニ願樂覺知成作爲興ノ八訓アル中今ノ入用ハ覺知ノ二字ナリ、先ツ覺トハ香月院廣本講義ニ覺也知也トハ字書ニ知覺トアルヲ上下シテ覺也知也トノ玉フ、往生一定ト覺知シ了解シテ落付ク事也、落付クト同時ニ必得往生ノ思ヒアリト申サレタリ、又圓乘院略本講義ニ、覺知トハ心ニ合點スル事也、又開悟院廣本講義ニ、覺知トハ覺悟了知ニテカクノ如クカクノ如シト了知決定スルコト、淨土ニ往生セント願

フ心ハ即チ是レ決定心ナリ、依リテ善導ノ釋ニモ作得生想トアリテ、疑ナク信スル處ニ往生決定ノ思ヒアリ、又開華院廣本金剛錄ニ覺知トハ、人ノ氣付カサル處ニテ、コノ覺ハ夢ノサメルコト、圓覺經ニ生死涅槃猶如昨夢トアルニ同シク、覺師ノ歌ニ「かわらじな彌陀の御國に生れなは昨日のゆめも今日のうつゝも」(敬重繪七^{七七})トアル是ハ淨土ニ往生シタ後ノコト今ハ信ノ一念ニ具ハル欲生心ノコトニテ、夢ノ覺メタル如ク、未タ至心信樂ヲ得サル間ハ吾身ノ造惡ニ恐レ、定散自力ノ夢覺メス、御タスケ如何往生云何ト、二ノ足ヲ踏ム故ニ、明ニ佛智ヲ信セス、久シク自力疑心ノ夢ヲ見タリシニ、今ハ至心ノ誠ヲモラヒ受ケ信樂ノ明信佛智ヲ得テ、定散自力ノ疑ヒノ夢サメテ、タノム一念ノ時往生一定ト夢ノサメタ心地ニナリタカ覺也ノ訓意也、未來ノ成佛手ニモノヲ握リタル如ク慥ニ吾物ニナリタカ知也、十九二十ノ如キ、タ、生レント願フ計リニアラス

云云又大津ノ竟悟寮司ハ覺ハ覺悟ノ義テ欲生スル内ニオモヒトル覺悟ノ義アリ
ユヘニ元祖ハ往生スルソトオモヒトルトノ玉フ、知也トトハ信知スルコトニテ
即チ往生一定トオモヒ知ル也、故ニ往生セント欲求スル心ニ作得生想ノ覺知ア
ルト申サレタリ應知、

七〇

七 當派ノ信心ノ心ノ字ハ慮知心ナル事

問曰當流ノ信心ノ心ハ訖利陀耶心ナリヤ質多心ナリヤ如何、

答曰信卷ニ他力信心ハ是レ大菩提心ナル義ヲ成スルニ論註ノ願生彼安樂淨
土者要發無上菩提心也ノ文ヲ引キ、又論註ノ木火ノ喩ヲ出シ、次ニ定善義ノ
文ヲ引キ、終リニ止觀ノ文ヲ引テ、菩提心ノ心タルヤ慮知心ナルコトヲ結成セ
リ、元來心ノ梵語ニ訖利陀耶ト質多トノ二種アリテ、訖利陀耶ハ堅實ノ義ニシ

テ、彼樹心等ノ堅實ナル如ク、如來藏心ノ常住不變ニシテ常ニ變ラサル處ヲ云
フ、質多心トハ緣慮心ノコトニテ八識ノ心々所カ、常ニ所緣ノ境ヲ緣スル緣慮
心ノコトナリ、第十八願ノ三信ハ我等衆生カ本願ヲ信シ彌陀ヲタノミ奉ル心故
如來藏心ニハアラス質多ノ緣慮心ナリ、タトヒ三信ヲ法ニ約シテ彌陀ノ御心ト
スルモ衆生ノ爲メニ成就シ玉フ三信ナレハ、如來藏心ニハアラス、質多ノ慮知
心ナリ、故ニ信卷ニ本願ノ三信ニ付テ、廣ク二番ノ問答ヲ設ケ、總結ノ文ニ止
觀ノ菩提心ノ釋ヲ引テ、質多緣慮ノ心ニシテ、訖利陀耶堅實ノ心ニ非ラサルコ
トヲ立證シ玉フハ本願ノ三信論主ノ一心ノ心ト云フハ質多ノ心ニシテ訖利陀耶
ノ心ニアラサルコトヲ顯ハシ玉フナリ、爾ニ至心ノ下ノ心ノ字訓ニ、心トハ種
也實也トアル種ニ付テ、聖教字箋ニ第八識ヲ種子識ト云テ引テ、訖利陀耶心ト
決シテアリ、開悟院師亦此說ニ伴ヒ、訖利陀耶心ヲ採用セラレタルハ甚タ不審

七一

ナリ、理綱院略本伊菴記ニハ蹄涔記ノ子實ノ義ヲ用井ラレタリ、皆往院廣本報恩記ニモ之ニ伴フテアリ、コレハ光遠院略本叢林解ニ、コノ心ノ字ハタチトヨムタチニナルモ此心ナリ、云々トアリテ佛教テハ心ハ一切諸法ノ因トナルコトハ常ノ所談ニシテ、華嚴經ニモ心如工畫師造種々五陰トアル故ニ今心ヲ種也實也ト訓シテ無上菩提ノ正因タルハ此信心也ト顯ハシ玉フ祖意ナラン、如是ナルトキハ聞ヨリ起ル信心思ヨリ起ル信心ハ緣慮心ニシテ堅實心ニアラサル上ハ無念無想ニアラサルコト應知、

八 覺悟花鮮ノ意義

問曰覺悟花鮮ノ意義如何、

答此言御式文ニ出テ、吾大師聖人稻田ニ駐錫在テ、盛ンニ專修念佛ノ一法

ヲ弘通シ玉フニ、其法雨ニ浴シ德風ヲ仰クモノ邪見ヲ翻シテ正信ヲ受ケ、偏執ヲ止メテ弟子トナル、辨圓ハ化セラレテ明法房トナリ、平治郎ハ轉シテ唯圓坊トナルカ如シ、如是德化ノ盛ンナルコトヲ讚嘆スル文ナリ、文ニ曰ク貴賤上下ニ對シテ末世相應ノ要法ヲ示ス、ハシメニ疑謗ヲナストモカラ瓦礫荆棘ノコトクナリシカトモ、ツ井ニ改悔セシメシヤカラ、稻麻竹葦ニオナシ、ミナ邪見ヲヒルカヘシ、コト／＼ク正信ヲウケトモニ偏執ヲヤメテカヘリテ弟子トナル、オヨソ教ヲ受クル徒衆當國ニアマリ、緣ヲムスフ親疎諸邦ニミテリ、謗法闡提ノトモカラナリトイヘトモ、カノ教化ヲキクモノ覺悟ハナアサヤカニ、愚痴放逸ノタクヒナリトイヘトモ、其諷諫ヲウルモノ惑障クモハル等、覺トハ先キニ願樂覺知ノ下ニ辯スルカ如ク覺悟覺知ト熟シ、サトルサムルアキラム等ト訓シテ安心ニ約シテ云ハ、自力疑心ノ夢カサメ、不了佛智ノ夜カ明ケテ、タノム

ヘキハ彌陀如來願フヘキハ安養ノ淨土ナリト、ハツキリト安心決定シタ相ナリ
悟トハ喜悟信ノ三忍ノ悟ニテ、忍トハ忍可決定ノ義、他方信心ノ智慧ニ依リテ
往生ヲ決定スル相ナリ、其悟忍トハ源ト觀經ニ廓然大悟ト説キテ明ニ佛智ヲサ
トルコトニテ明信佛智ノ了解也、六要五_右正信偈大意_五云云爾レハ悟トハ
覺悟々解ト熟シテ目ノ前ノサハリカ離レテ向ノ見徹シノ付タ事疑ナク佛智ヲ了
解シハツキリト佛智ヲサトリテ往生ヲ決定セシ相ニテ之ヲ花ノ鮮ニ開ケルニ比
シテ覺悟花鮮トイフ、念佛ノ行者ヲ芬陀利華ニ喩ヘ玉フモノ故ナキニアラス、
蓮師ノ歌ニ「南無トイフソノニタ文字ニ花咲テ阿彌陀佛ケニ實ハナリニケリ」
ト思フテ可知、如是覺知ト云ヒ覺悟トアルカラハ、一念ノ信心豈無念無想ナル
ヘケンヤ、然レトモ凡夫カ執シ認ムル妄覺ニアラス、佛智所見ノ覺ナルコトヲ
知ルヘシ、

九 相承ノ聖教ニ於テ一念有覺ノ的證

問曰上來ノ辯ニヨリ、佛智所見ノ覺ニ約セハ、一念有覺ノ義一往命ヲ聞ク、
列祖相承ノ聖教ニ於テ其的證ヲ示セ、

答曰本願鈔ニ文ノコトク一念歡喜ノオモヒ_オコルニツキテ往生タナトコロニ
等、眞要鈔ニハ隱ニハ眞因ヲ決スル安心ノ一念ナリ、乃至如來ノ名號ヲキ、エ
テ機教ノ分限ヲオモヒサタムルクラ井ヲサスナリ、又御文ニハイマノコトハリ
ナキ、ヒラキテ往生治定トオモヒサタムルクラ井ヲ一念發起住正定聚」等トノ
玉フ、如是類文枚擧ニ違アラス、是等ノ諸文正ク行者機受ノ信相即チ往生治定
スル場合ヲ示シ玉ヘル教語ニシテ、其叮嚀懇切我等凡夫ヲシテ迷ハント欲スル
モ迷フコト能ハサラシム、焉ンソ感佩セサルヘケンヤ、此等ノ明文ニ依リテ信

ノ一念ハ無念ニアラス無想ニアラス、佛智所見ノ覺悟ニ約セハ有念有想ナルコト應知、

十 時刻一念不覺ノ理由

問曰上來廣ク信相ニ付テ凡夫執心ノ機情ニ關ル妄覺ニ約セハ不覺ニシテ、他力廻向ノ信相ニ約セハ有覺ノ義ナルコト命ヲ聞ク、信相已ニ有覺ナルトキハ、時刻ニ約スルモ亦有覺ト云テ然ルヘキヤ、

答曰狹ク時刻ニ就テ之ヲ論セハ不覺ト云ヘシ、之ニ二因アリ、一ニ時刻ノ極促ナルカ故ニ、二ニ他力ヨリ發起セシメ玉フカ故ニ、云々

十一 往生一定ト思ヒ定ムルハ信心ノ第

二念ナリトナス説ノ可否

問云有人信卷ニ信一念ヲ釋シテ時刻ノ極促トアリ、其速カナルコト營ニ電光石火ノミナラス何トモ歎トモ吾人カ思フ暇ナキ程ナリ、之ヲ例セハ茲ニ正午ノ砲聲ヲ聞クコトアリト假定セヨ、砲聲先ツ我方ニ到達シ而シテ後之ヲ思想ノ上ニ運ヒタル者ナレハ到達ノ初一念ヨリ流れ出テ、ア、今ハ十二時ナリト思想ニ浮ヒシ者ナレハ第二念ナリト云ハサルヘカラス、今信心モ亦然リ、往生一定ト思ヒ初メタルハ、佛勅カ我身ニ徹到シタルカ流レテ思想ニ浮ヒタル者ナレハ信心ノ第二念ナルヘシ、然レトモ初一念モ亦無念ニハアラス、但其時刻極メテ短促ナルヲ以テ凡夫ノ之ヲ知ルコト能ハサル迄ナリト此説ノ可否如何、

答曰、大ニ非ナリ、其故ハ一念ヲ以テ實時トナス者ニ似タリ、已ニ今家ノ聖教中實時ヲ以テ一念ヲ釋スルコトナシ、午砲ノ例ノ如キ、一念ヲ無念トナス過ニ墮ス、午砲ヲ聞テ十二時也ト知ルノ前ニハ果シテ何等ノ念想カアル即チ無念

ナルヘシ、茲ニ於テ彼レ或ハ云ハン信ノ一念無念ニアラス但行者知ルコト能ハ
 サル耳、佛ハ能ク之ヲ知り玉フト、果シテ然ラハ佛ニ約セハ有念ニシテ行者ニ
 就カハ無念ナルヘシ行者ノ無念、豈宗義ニ違スルナシトセンヤ、口傳鈔ニ一念
 往生ハ短命ノ機ノ爲ナル由ヲ釋成シ玉フニ依レハ、初一念ノ儘ニテ往生スル者
 モアルヘシ、此人ニ就カハ往生治定ト思フ間モナク死センニハ思ヒモ寄ラヌ淨
 ニ土生レ當ニモセサル果報ヲ得ルノ珍事ヲ見ルコトアラソ、

抑聞其名號信心歡喜ハ本宗安心ノ依憑、行者機受ヲ示スノ要文ニシテ、タノ
 メ助ケンノ佛勅ヲ聞ク者タスケ玉ヘト思ハサラント欲スルモ得ヘカラス、コノ
 タスケ玉ヘノ思ヒノ以前ヲ尋ヌレハ、未タ聞カサル以前ナリ未タ聞カサル以前
 ニ已ニ信心ノ初一念存在スト云ハ、誰レカ其愚ヲ笑ハサランヤ、且聖教量ニ
 違ス、御文一帖第四通イマノコトハリテキ、ヒラキテ往生治定トオモヒサダム

ルクラ井ヲ一念發起住正定聚」等トノ玉ヒ、本願鈔文ノコトク一念歡喜ノオモ
 ヒオコルニツキテ往生タナトコロニ」等類文枚擧ニ違アラス、嗚呼彼レカ時刻
 ノ極促ノ文ヲ僻解セン、一惑ヨリ延テ聖教滿面ノ明文ヲ紊亂スルニ至ル、一步
 ハ千里ノ始メナリ深ク謹マサルヘケンヤ、

問果シテ一念ハ無想ニアラス無念ニアラス慥ニ往生治定ト思ヒ定ムル覺知覺
 悟アリト云ハ、獲信ノ後ニ於テ、我レ一念ノ信ヲ得タリシトキハ、如斯々々
 ト思ヒタリト、念相ヲ記憶スルコトアルヘキヤ、果シテ念相ヲ記憶セハ隨テ其
 年月日時ヲモ記憶スヘシ如何、

答云子カ念相ヲ記憶スヘシ云々ト云ハル、者ハ悉ク凡夫妄情ノ妄覺ニ屬スル
 者ニシテ、大信心海ノ中豈如是妄情ノ波瀾アラシヤ、上ニ已ニ辯スルカ如シ、
 果シテ妄情ノ波瀾ナシトセハ豈年月日時ヲ記スヘケンヤ、今ハ子カタノム一念

ハ極尅短時ナレハ何トモカトモ信相ノ如何ヲ知ルヘカラス、往生一定ト思ヒ初メタルハ第二念ナリト云ハントスルニ對シ往生治定ト思ヒ定ムルトアレハ實ニ信相アリテ、極睡眠ノ覺知無キカ如クナルニモアラス、又他人ノ心相ノ推知スヘカラサル如クナルニモアラス、又非情ノモノ、得ヘキ信ニモアラス、佛智所見ニ約セハ、慥ニ其信相アルコトヲ述セシナリ、子カ難シテ先ツ本願他力ノイハレヲ聞キ、而シテ後ニイテヤ確ト心ニ覺ヘラル、程ニ彌陀ヲタノマント思ヒタナテ起セシ者ナルヤ、又後念ニ至リテ其信頭ヲ按ヘテ、我ハ前念ニ如斯々々思ヒタリト、念想ヲ記憶スルコトアリヤ、又年月日時ヲ記憶スルコトアリヤ等ノ難ハ要スルニ凡夫所執ノ妄情妄覺ヲ認メテ覺不ヲ論スル者ニシテ今關スル所ニアラス、上ニ屢々辯スルカ如シ、佛ニ約セハ有覺行者ニ約セハ無覺ノ難ヲ會ス、

問曰初一念ハ時尅ノ極促ニシテ何トモカトモ凡夫ハ知ルコト能ハス、佛ノミ獨リ之ヲ知リ玉フト云ヘルニ對シテ、爾ラハ佛ニ約セハ有念行者ニ就カハ無念ナルヘシト難セリ、爾ルニ古德ノ辯ノ中一念ハ凡夫ノ知ル所ニアラス佛ノミ、之ヲ知リ玉フトイフ説間々ナキニアラス悉ク之ヲ排スヘキヤ、

答曰時刻ニ約シテ、何年何月何日何時何分何秒ニ獲信シタリトイフカ如キハ凡夫ノモノヨリ知ル能ハサル處ニシテ、佛而已之ヲ知リ玉フトイフ、古德ノ辯我輩何ソ之ヲ排センヤ、今我輩ノ排スル處ハ初一念ノ信相ハ云何ナルモノナルカ凡夫ハ毫モ知ルヘカラスト云ヘルヲ排スルノミ、ソモ聞名信喜一念業成ノ法門ハ、凡夫カ本願名號ヲ聞信スル信相ニシテ、我等カ覺知解スルコト能ハサル心行處滅ノ法門ニアラス、其信機信法捨雜歸正ミナコレ凡夫覺知ノ信相ニシテ名號ノ由レヲ聞信シタ信相ハ雜行ステ、御助ケ候ヘニアラスヤ爾ルヲ此

一念ノ信相佛ノミ之ヲ知り玉フ凡夫ノ知ルヘカラサル處ナリト云ハ、法華ニ言フ處ノ是法不可示言辭相寂滅ニ類スルモノニシテ、愚凡不適當ノ法ト云ハサルヲ得ス、コレミナ一念ヲ實時ト定メシヨリ延テ刹那ヨリモ速疾ナリ電光石火ノ比ニアラストイヒテ、終ニ一念ノ信相マテ凡夫カ知ルコト能ハサル者ナリト云フニ至ル、恐レサルヘケンヤ、

十二 非有念非無念之義意

問曰信卷「有念ニアラス無念ニアラス」ト云ヘリ、然ルニ前來ノ所辯無念ヲ排シテ有念ヲ立ツルニ似タリ、豈祖訓ニ背クモノニアラスヤ、

答曰信卷ニ有念ニアラス無念ニアラストアルハ聖道門及ヒ淨土門中ノ要門眞門ノ所談ヲ掲ケテ、雙非ヲ以テ簡去シ玉ヘルノミニシテ、雙亦ヲ取テ信心ヲ立

玉ヘルノ祖意ニハアラサルナリ、故ニ今ノ所謂有念無念ト同論スヘキニアラサルナリ、末燈鈔ニハ有念ハスナハナ色形ヲオモフニツイタイフコトナリ、無念トイフハカタチヲコ、ロニカケスイロヲコ、ロニオモハスシテ念モチキタイフナリ、コレミナ聖道ノオシヘナリ、乃至マテ淨土宗ニ有念アリ無念アリ、有念ハ散善義、無念ハ定善義ナリ、淨土ノ無念ハ聖道ノ無念ニアラス」等トノ玉フ御消息集ニハ有念無念トマウスコトハ、他力ノ法門ニハアラヌコトニテサフラフ、聖道門ニテマウスコトニテサフラフナリ、ミナ自力聖道ノ法門ナリ、阿彌陀如來ノ選擇本願念佛ハ有念ノ義ニモアラヌ、無念ノ義ニモアラヌトマウシサフラフナリ、乃至常陸國中ノ念佛者ノナカニ、有念無念ノ念佛沙汰ノキコエサフラフハ、ヒカコトニテサフラフト、マウシ候ヒキ、タ、詮スルトコロハ他力ノヤウハ行者ノハカラヒニテハアラヌサフラヘハ有念ニアラス無念ニアラスト

マウスコトヲアツフキ、ナシテ、有念無念ナシトマウシサフラヒケルトオホエ
サフラフト玉ヘリ、祖訓明々晰々タリ豈異議スヘケンヤ、

十三 吉水入室ノ如キハ獲信ノ年時ヲ記憶シ

玉フヘシト云フ難チ會ス

問曰化卷御自釋八五然愚禿釋鸞建仁辛酉曆棄雜行兮歸本願ト、此御告白
ニ依レハ獲信ノ年時ヲ記憶シ玉フニ似タリ如何、

答曰カノ文ハ吾祖大師捨聖歸淨ノ因縁ヲ述ヘ玉フ文ニシテ曾テ山門ニ在シテ
出離生死ノ一大事ニ思チ凝シ、歩ミチ六角ノ精舎ニ運ヒ、百日ノ懇念チイダシ
告チ五更ノ孤枕ニエテ、數行ノ感涙ニ咽ヒ玉ヒテ、吉水五入室シ本朝念佛ノ元
祖黑谷ノ聖人ニ謁シ出離ノ要道ヲ問答シ玉フニ黑谷ノ聖人宗ノ淵源ヲツクシ、

教ノ理致チキハメテ之ヲ授ケ玉フ而シテ立處ニ他力攝生ノ旨趣ヲ受得シ玉ヒ凡
夫直入ノ眞信ヲ決定シ玉フ、此入法歸信ノ因縁ヲ記述シテ、永ク記念ニソナヘ
宿善開發ノ由來ヲ喜ヒ玉フモノニシテ其何月何日何時何分何秒ニ獲信シタリト
ノ玉フニモアラス、又幾許ノ時間ヲ經テ斯ク思ヒタリアレヨソ信ノ一念ニテ彼
ノ時正ニ攝取セラレタリトノ玉ヒシニモアラス、但シ昔シ叡岳ニ在シテ元祖ノ
教示ヲ受ケ玉ハサリシ以前ノ心ニ對シテ、今淨土門ニ入り、慶喜報恩ノ心トナ
リシハ、建仁辛酉ノ年ニテアリシナリト、入法ノ因縁ヲ記述シ玉ヒシモノナリ
吾祖ノミナラス明法坊等ノ入法ノ年時ヲ記傳ニ載セタルハ概チ之ニ類セリ然ル
ニ尋常ノ行者ハ概チミナ數百席ノ聽聞ヲ重チ幾回カ若存若亡ノ間ヲ彷徨シ遇々
宿善開發ノ時到リ、知識傳持ノ佛語ニヨリテ、豁然大悟シテ眞正ノ獲信ニ至リ
タルモノナレハ、其嚮キノ若存若亡ノ心カ今ノ眞實信ニ於ケル微細ナル交際チ

分別スルコト能ハサルカ爲メニ、其眞實信初起ノ年月日時ヲ記憶セサルナリ、
 彼補講師ノ夜カ明ケテ晝トナルカ如シト云ハレタルカ實ニ然カナリ、何分何秒
 マテハ夜ニシテ何分何秒已後ハ晝也ト記スルコト能ハサルカ如シサリ乍ラ夜ノ
 明ケタ驗シニハ一點ノ闇アルコトナキカ如クアルトキハサモトオモヒアルトキ
 ハカナフマシト思ヒタル若存若亡ノ疑懼躊躇ノ念、今ハ全滅シテ往生ノ心ニ疑
 ナク出掛ル未來ニ安心シテ仰ヒテハ佛恩ノ深遠ナルヲ思ヒ、俯シテハ師教ノ恩
 厚ヲ慶フ身トナリシハ、光明界裡ニ攝取セラレタル實驗實證ナリ、一乘院吉谷
 講師ハ土用ノ入りノ喩ヲ以テ論サレタリ、土用ノ入りト云ヘハトテ何分何秒ヲ
 記スルコト能ハサレトモ土用ニ入りタル證據ニハ云フマヒト思ヘト今日ノ暑サ
 哉、流汗淋漓以テ土用ニ入りタル證トスヘシ、往生ノ心ニ疑ノナクナリテ候ハ
 攝取セラレマイラセタルユヘトミヘテ候トノ御言ニテ可知、

十四 何年何月何日何處ニテ獲信セリト

云者アリ可否如何

問曰世間ニ於テ、我ハ何年何月何日何處ニ於テ何某ノ説教ヲ聽聞シテ、豁然
 大悟セリト言外ニ出シ以テ吾祖ノ吉水入室ニ擬セントスル者アリ、可否云何、
 答曰機類萬差ニシテ一概ニ云ヒ難シト云ヘトモ、其何年何月何日何處ニ於テ
 何師ニ就テ獲信セシト云フカ如キハタ、一時ノ感情ヲ信心ト認メテ居ルモノテ
 ハアルマヒカ、果シテ然ラハ先キニ屢々辯セシ妄覺ノ分齊ニシテ、未タ自力ノ
 範圍ヲ脱セサル人、ニテハアルマヒカ、是レタノムヘキ本願ヲタノマス、又タ
 ノムヘキ佛智ヲタノマス、タノムマシキ我カタノミフリ信シフリチアテトシ力
 ラトシテ居ル人ニテハアラサルカ深ク思擇スヘシ、

大正元年八月一日印刷
大正元年八月五日發行

一念覺不論奧附
定價金貳拾錢

著者 太藤順海

印發
刷行者兼

京都市下京區中珠數屋町烏丸東入
二十八番町二十二番戶
西村七兵衛



發行所 京都市東六條 (電話下四五八) 法藏館
(口座大阪一七〇四)

◎宗學界空前絶後の安心經◎

故嗣講 牧野神爽師著

改悔文講話

四六判總ク
洋裝背表金文字
印刷美麗
四百五十頁
定價金壹圓
郵税八錢

是れ恐らく宗學安心界に破天荒の珍書ならん、古來の文相釋義に止ら
て緻密なる安心上の諸問題雜行につき難修につきタノムの義助
ケ給への義報謝の念佛等につき悉く古來の諸説を擧げて學解相待ちて自督明快の批判を與へ師が用ゆ
正義を明かにせり著者秘藏して曾て人に示さざりし所說教者にあらすし道心を知らんと欲せば
ある學者たるに驚かん、世の布道家にせよ、安心の正意必ず本書を讀め

◎本書の一大使命は異安心征服にあり◎

發行所 京都市東六條 電話下四五八番 大阪口座七〇四番 法藏館

擬講 岸本義導師編輯

先德芳談

定價參拾五錢
本誌讀者郵税不要

高倉の先輩惠空、香月院、雲華院、香樹院、香山院其他嗣講、擬講等孰れも一代の碩學名德その一言一行悉く梅檀
の香を止め一盤一笑亦た蘭菊の芳を奪ふ、實錄叢誌に是れを天下に集めて誌上教訓ありまた安心あり
逸話あり詩歌あり先德の面目紙面躍如たり若し一本座右の銘とすべ銷夏の好伴侶たるべ

發行所 京都市東六條 電話下四五八番 大阪口座七〇四番 法藏館

高倉大學寮貫練會諸師批判 擬講間野闡門師編纂

真宗安心示談

全二册

●第一卷本編成
●第二卷近刊
定價 六拾錢
本誌讀者郵税不要

批者

學 師 稻葉 敬山 學 師 竹越 徳道
學 師 德永 弘鏡 學 師 武宮 徳道
學 師 井上 義統 學 師 山崎 徳道
學 師 太藤 順海 學 師 牧野 要眞
學 師 神岡 龍天 學 師 東 飛龍
學 師 岸本 龍天 學 師 佐々木 龍天
學 師 岸本 龍天 (イロハ編)

虚飾なき熱誠なる求法質疑して他力安心の極致について、嗚ん應答懇話せられしも批判の任に當れ高倉大學寮貫練會の諸師調辯擬講天下に於ける正統安心の發表や荷も一流正義の眞信に住せんとするもの一讀せよ

發行所

京都東六條 電話下四五八番
口座貳五四四番

法藏館

講師 吉谷覺壽師撰

真宗安心詮要

定價 四拾五錢
本誌讀者郵税不要

他力安心の要義 廣く聖典講 散在せりと異説紛々 茫洋の惑なき
著者宗學の泰斗 難遇の希有 御遠忌に際し喜 紀念のため 研究の蘊蓄
を傾け相承學 最近發揮の精義を盡し、念佛爲本、信心十年來、信願交際、一念の義相
體、佛凡 安心中心の問題を本書に解決 異安心問題喧々 心あるもの世の本
一體等 疑 惑を晴らすべき也

學師 日野公任師著

文明と他力

(真宗入門)

定價 拾八錢
本誌讀者郵税不要

時勢に適合せざる宗教は、それ暑中の綿入の如きか由來他力眞宗の特色は、
時機相應にあり、著者の炯眼能く日新月歩の文明に就て、他力の信仰を説く
以て青年求道者の渴仰を醫すべき也

發行所 法藏館 京都東六條 電話下四五八番 番八五四 番四〇七

眞宗講義書目

著者	書目	定價	郵稅
高倉大學寮編	易行品講纂	金壹圓五拾錢	拾貳錢
高倉大學寮編	往生論註講纂	金八圓	貳拾八錢
吉谷覺壽師著	三帖和讚講述	金壹圓貳拾錢	拾貳錢
吉谷覺壽師著	正信偈講述	金參拾五錢	四錢
吉谷覺壽師著	御文講述	金參圓八拾錢	拾貳錢
淨誓寺仰誓師著	眞宗法要典據	金八拾錢	拾貳錢
南條神興師著	廣文類論草	金貳圓五拾錢	拾六錢
南條神興師著	淨土文類聚鈔講判	金八拾錢	八錢
南條神興師著	愚禿鈔講義聞書	金八拾錢	八錢
村上專精師著	聚鈔類百二十題決擇記	金八拾錢	八錢
靈城師著	御文安心要論	金五拾錢	八錢
和田龍造師著	淨土三經交際論	金五拾錢	六錢
和田龍造師著	阿彌陀經達意	金參拾五錢	貳錢

發行所 京都市東區六條二丁目五番八號 法藏館

眞宗講義書目

著者	書目	定價	郵稅
楠潛龍師著	大經貫綜錄	金七拾錢	八錢
楠潛龍師著	觀經微笑錄	金六拾錢	八錢
香月院師著	御一代記聞書講義	金貳圓五拾錢	八錢
香月院師著	選擇集講義	金貳圓五拾錢	八錢
占部觀順師著	選擇集閑古錄	金七拾五錢	六錢
占部觀順師著	二種深信略述	金拾五錢	貳錢
占部觀順師著	眞宗問答	金八錢	貳錢
松原深明師著	後生要論	金參拾五錢	四錢
松原深明師著	現生不退要論	金拾五錢	貳錢
朝倉了昌師著	正信偈鑽仰	金貳拾錢	貳錢
朝倉了昌師著	五惡段演端身正行	金貳拾貳錢	貳錢
香嚴院惠然師著	安心決定鈔鑽仰	金拾八錢	貳錢
南條文雄師著	式嘆德文講義	金貳拾錢	貳錢

發行所 京都市東區六條二丁目五番八號 法藏館

324
312

眞宗安心書目

著者	書目	定價	郵税
大須賀秀道師著	▲香樹院教訓集	金壹圓五拾錢	
大須賀秀道師著	▲龍溫語錄	金八拾錢	
和田龍造師著	▲香月院語錄	金壹圓	
法藏館編	▲ <small>香月院某講師</small> 安心問答集	金拾八錢	
藤谷遠由師著	▲眞宗現世祈禱論	金拾錢	
今井清吉著	▲眞宗大綱	金參拾錢	
福井了維師著	▲親鸞聖人	金四拾錢	
小栗憲一師著	▲眞宗興隆緣起	金四拾錢	
東陽圓月師著	▲二河譬喩詳解	金拾五錢	
細川千巖師著	▲安心道のしらべ百ヶ條	金拾五錢	
二十大家著	▲見眞大師	金參拾錢	
妙音院了祥師著	▲願海あまの手遊	金參拾錢	
香月院師著	▲道宗二十一ヶ條講話	金拾貳錢	

發行所 京都市東區大坂口座七番八番法藏館

324
312

終